

2025年度  
**決算資料**

Consolidated Financial Results

2026年5月14日

株式会社 **TBS** ホールディングス

## 2025年度 決算

- 連結全体では、**増収増益**。連結売上高としては、過去最高を更新。
- メディア・コンテンツ事業は、視聴率の好調などによる放送収入の増収、配信広告収入の伸長により、**増収増益**。
- ライフスタイル事業は、売上高は、やる気スイッチグループでの生徒数の拡大に加え、スタイリングライフグループのPLAZAやBCLが好調で、**増収**。一方、やる気スイッチグループで人件費が増加したことなどにより、**減益**。
- 不動産・その他事業は、売上高は**前年並み**。また、費用の増加により、**減益**。

連結	2024年度	2025年度	前年差
売上高	406,700	424,850	+18,149
営業利益	19,465	24,750	+5,284
経常利益	31,604	37,373	+5,769
親会社株主に帰属する当期純利益	43,914	52,228	+8,313

単位:  
百万円

## 中期経営計画2026のアップデート

- セグメント別のROICスプレッド(※)の拡大を重要課題と位置づけ、セグメント別にリスクとリターンを評価し、赤坂再開発の外部借入を拡大。
- 政策保有株式等の売却計画を1,350億円に引き上げ。営業CFは株式売却による法人税等の増加により下方修正も、借入と合わせてキャピタルアロケーションは拡大。
- 2026年度よりB/Sの適正化に着手。  
期末配当金額について、直前に公表していた予想配当金額を11円上回る、1株当たり49円とし、株主還元を3年間で1,050億円に引き上げ。

※セグメント別ROIC-WACC

## 2026年度 業績見通し

- 2025年度に、連結営業利益目標240億円を1年前倒しで達成。  
これに伴い、2026年度は、連結売上高4,400億円、連結営業利益260億円の予想。

# 目次

—

2025年度 通期決算ハイライト

TBSグループ中期経営計画2026のアップデート

2026年度 業績見通し

その他トピックス

参考資料

本資料に記載されている将来の当社業績に関する見通しほか全ての内容は、本資料作成時点の当社の判断に基づくものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経済情勢、市場動向、経営環境などの変化により、記載事項と異なる可能性があることに十分ご留意下さい。また、本資料の無断転載はお断りいたします。

◇お問い合わせ先

〒107-8006

東京都港区赤坂5丁目3番6号 Tel : 03-3746-1111 (代表)

株式会社TBSホールディングス 総務局コーポレート業務推進部IR室

HP : <https://www.tbsholdings.co.jp/ir/>

## ▶ 2025年度 通期決算ハイライト

TBSグループ中期経営計画2026のアップデート

2026年度 業績見通し

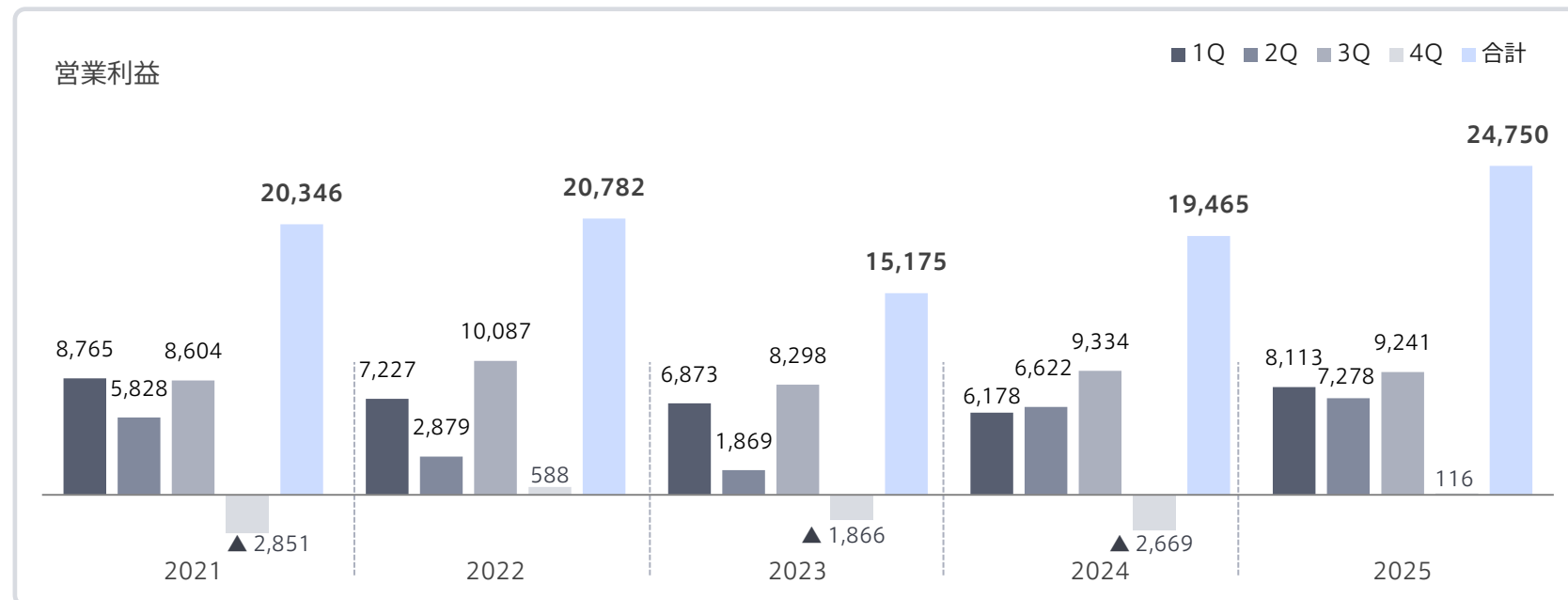
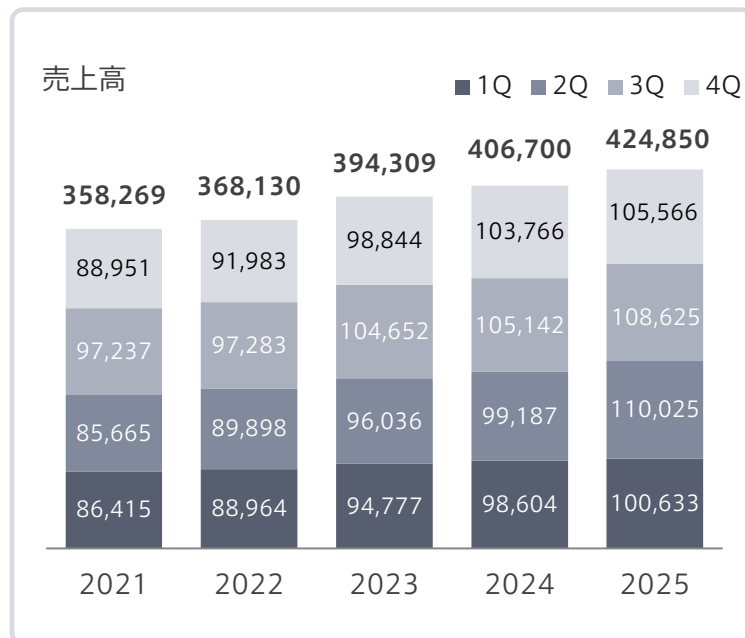
その他トピックス

参考資料

# 連結損益計算書

連結	2024年度	2025年度	前年差	増減率
売上高	406,700	424,850	+18,149	+4.5%
営業利益	19,465	24,750	+5,284	+27.1%
経常利益	31,604	37,373	+5,769	+18.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	43,914	52,228	+8,313	+18.9%

単位:  
百万円



# 連結セグメント別 実績

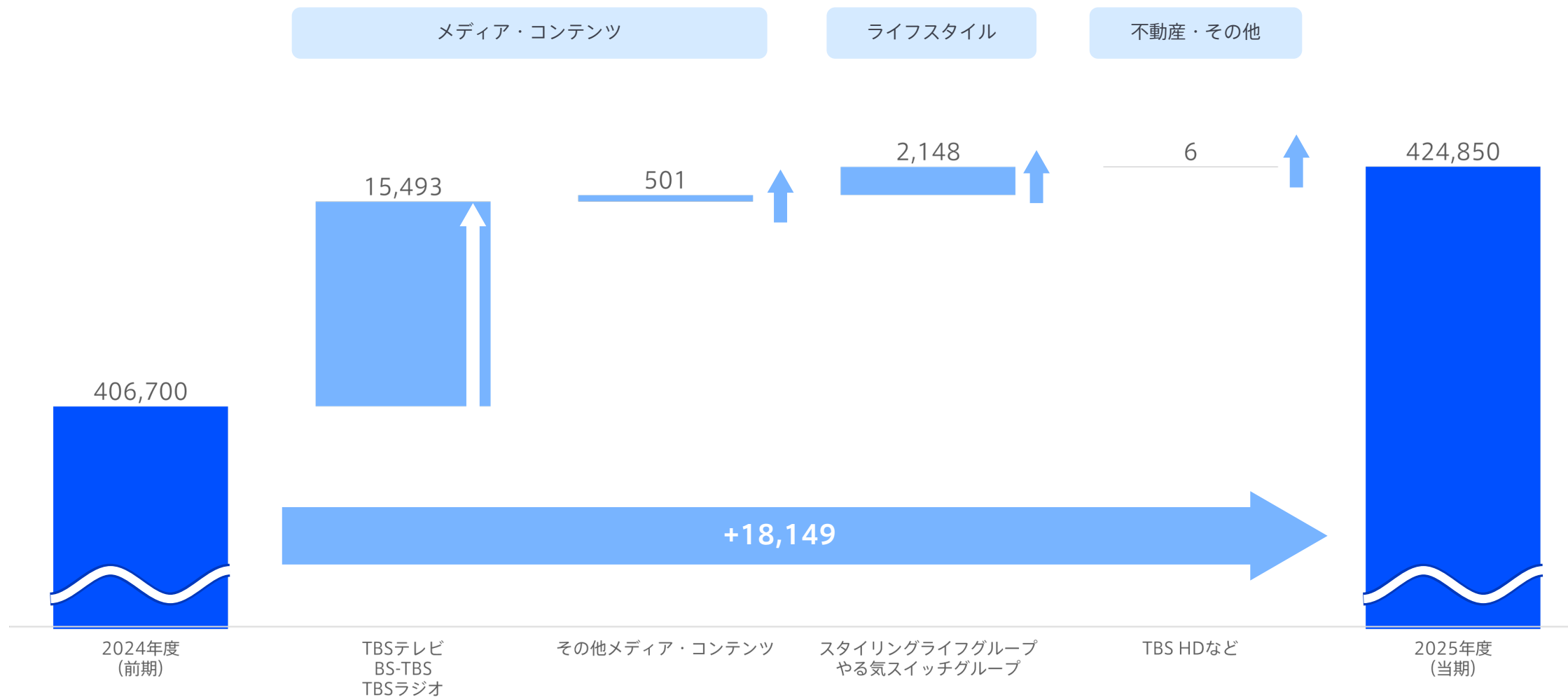
	外部売上				営業利益				単位: 百万円
	2024年度	2025年度	前年差	増減率	2024年度	2025年度	前年差	増減率	
メディア・コンテンツ	296,242	312,237	+15,994	+5.4%	8,490	14,612	+6,121	+72.1%	
ライフスタイル	93,576	95,724	+2,148	+2.3%	3,505	2,866	▲638	▲18.2%	
不動産・その他	16,881	16,888	+6	+0.0%	7,468	7,271	▲196	▲2.6%	
調整額	-	-	-	-	0	▲0	▲1	-	
連結	406,700	424,850	+18,149	+4.5%	19,465	24,750	+5,284	+27.1%	

主な増減要因	外部売上	営業利益	単位: 百万円
メディア・コンテンツ	TBSテレビ+15,740 WACUL+1,249 THE SEVEN+800 TBSスパークル▲1,444 TCエンタテインメント▲440 TBSグロウディア▲433	TBSテレビ+9,509 TBSスパークル+699 TBSグロウディア▲713 TCエンタテインメント▲558	
ライフスタイル	やる気スイッチグループ+1,570 スタイリングライフグループ+577	スタイリングライフグループ+79 やる気スイッチグループ▲717	
不動産・その他		赤坂熱供給▲80	

# 連結セグメント別 売上高（外部売上）の増減要因

■ 売上実績 ■ 増加分 ■ 減少分

単位：百万円

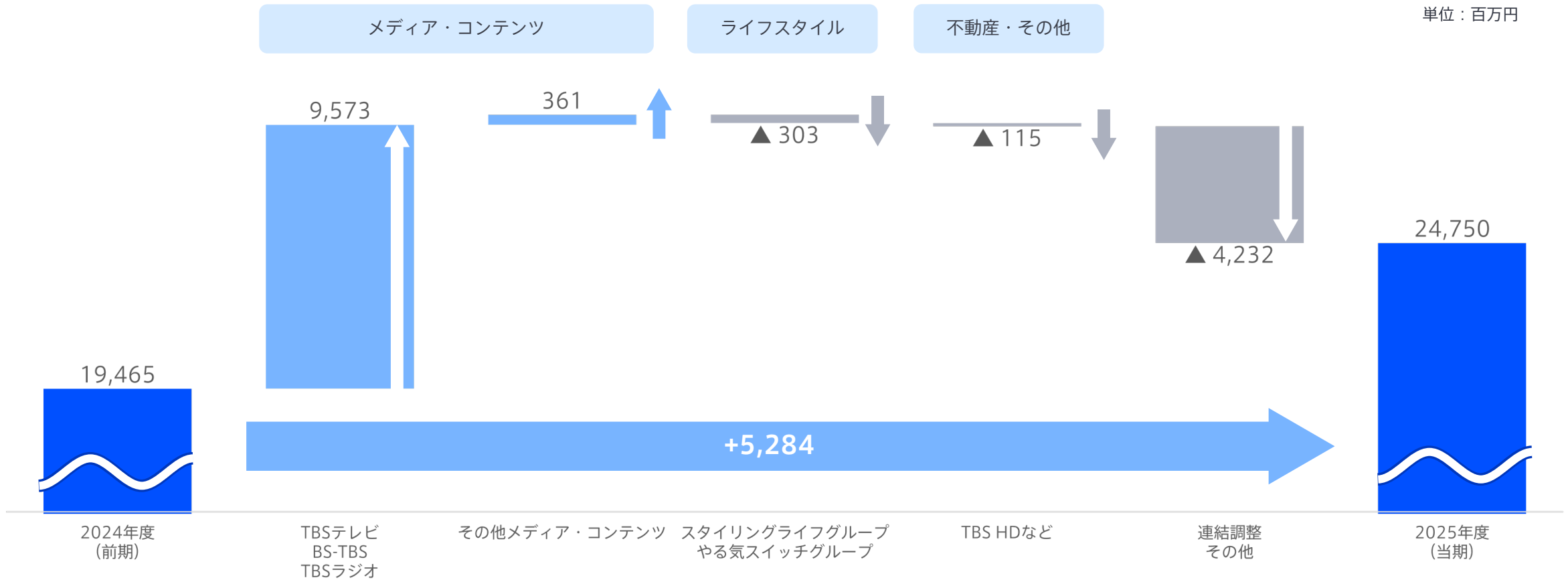


# 連結セグメント別 営業利益の増減要因

連結全体で、増益。

- メディア・コンテンツ事業 → 放送収入や配信広告収入の増収により、増益。
- ライフスタイル事業 → やる気スイッチグループでの人件費の増加などにより、減益。
- 不動産・その他事業 → 連結調整その他に含まれている全社費用の増加などにより、減益。

■ 営業利益 ■ 増加分 ■ 減少分



# TBSテレビ 損益計算書

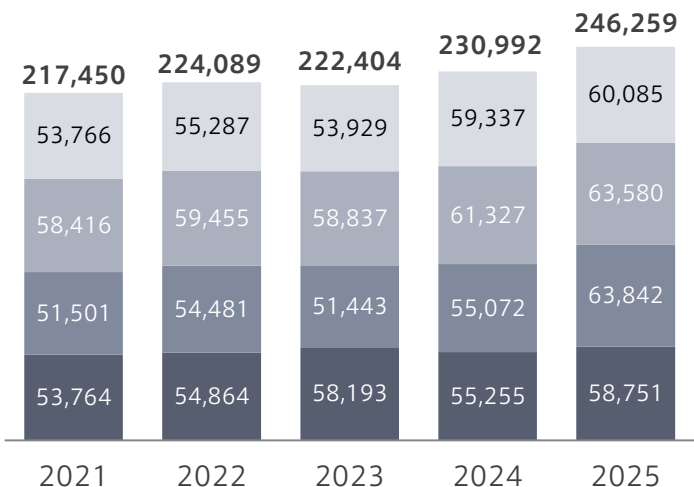
TBSテレビ	2024年度	2025年度	前年差	増減率
売上高	230,992	246,259	+15,267	+6.6%
営業利益	8,996	16,820	+7,823	+87.0%
経常利益	11,750	18,912	+7,162	+61.0%
当期純利益	25,727	39,966	+14,238	+55.3%

単位:  
百万円

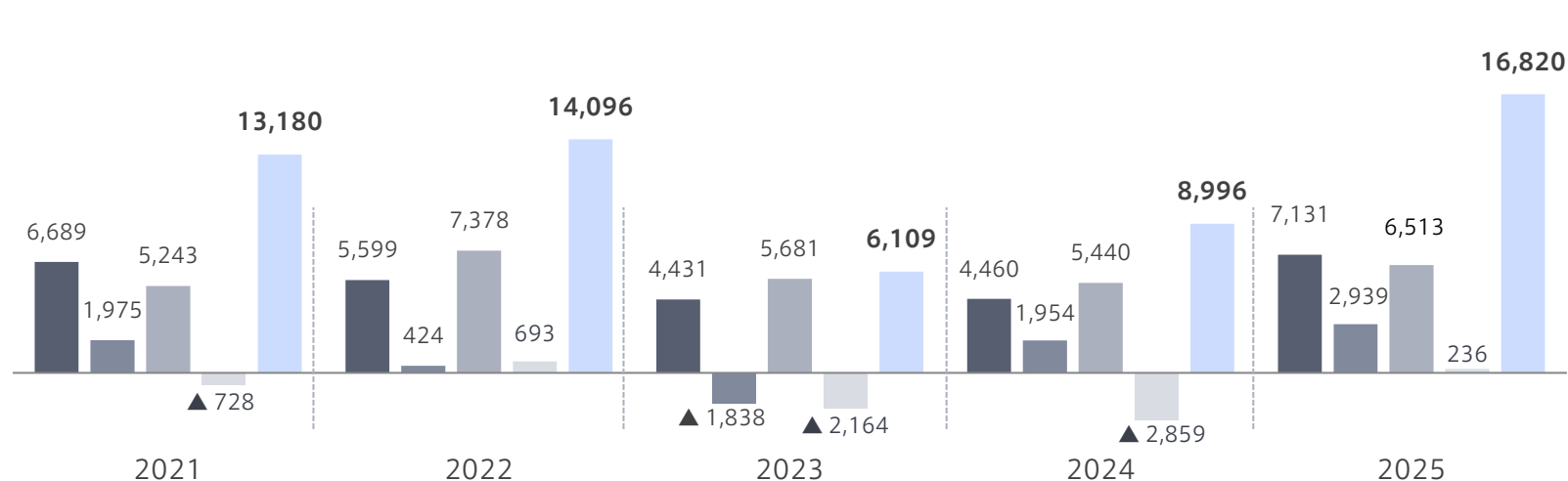
## 営業費用など

- 番組原価 +3,049
  - 代理店手数料 +3,348(当期34,069)
  - ネットワーク費 +1,140
  - 事業部門営業費用 +2,375
- 
- 特別利益 (投資有価証券売却益) 当期 43,774
  - 特別損失 (固定資産撤去費など) 当期 1,166

売上高



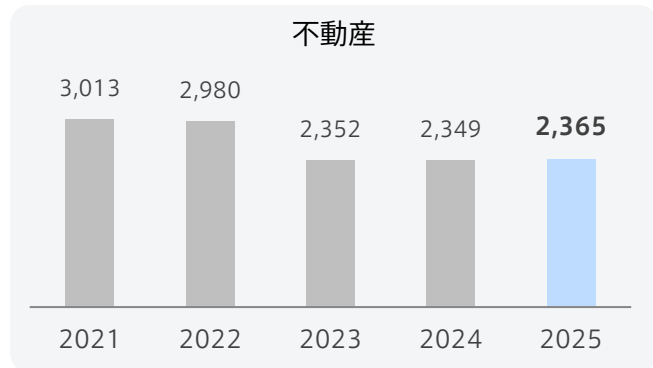
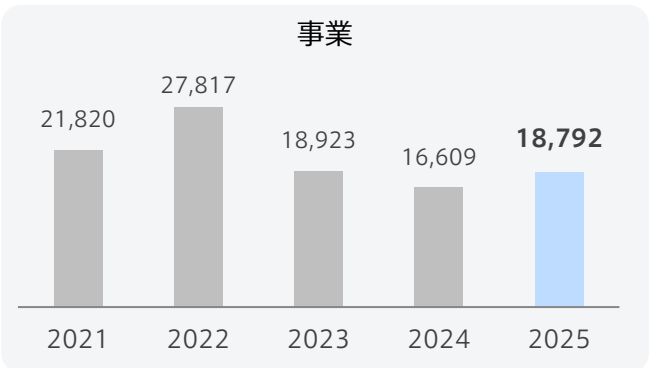
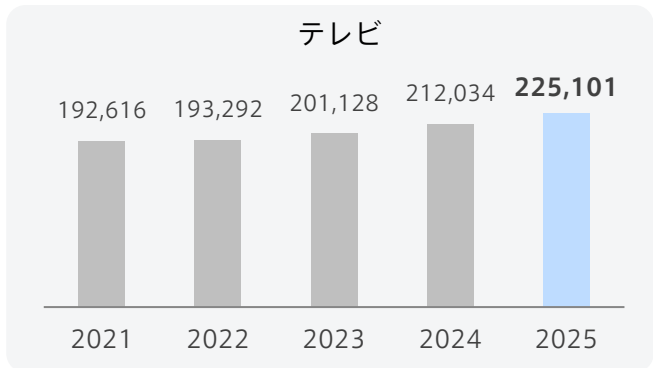
営業利益



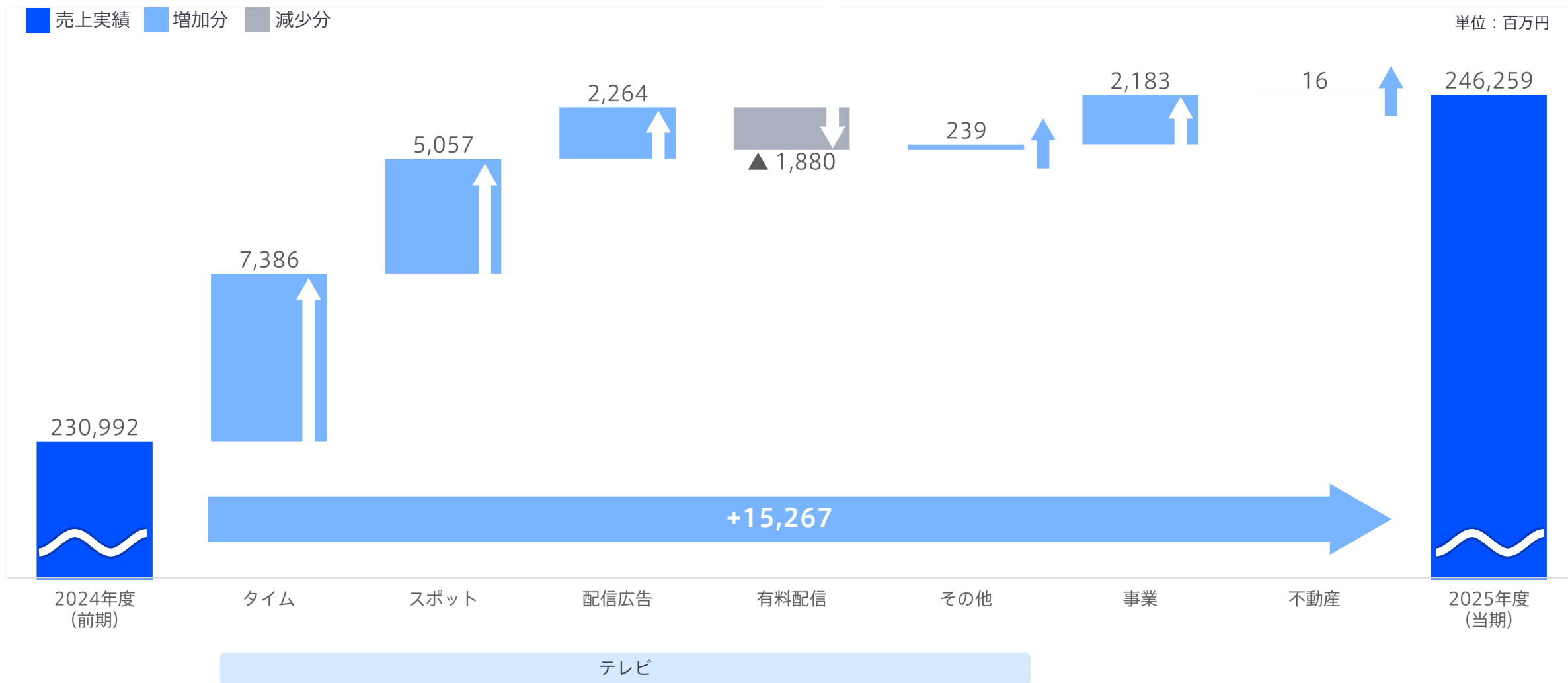
# TBSテレビ 収入内訳

	2025年度	前年差
テレビ	225,101	+13,067
タイム	88,650	+7,386
スポット	87,413	+5,057
配信広告	14,312	+2,264
有料配信	9,334	▲1,880
その他	25,390	+239
事業	18,792	+2,183
不動産	2,365	+16
収入合計	246,259	+15,267

単位:  
百万円



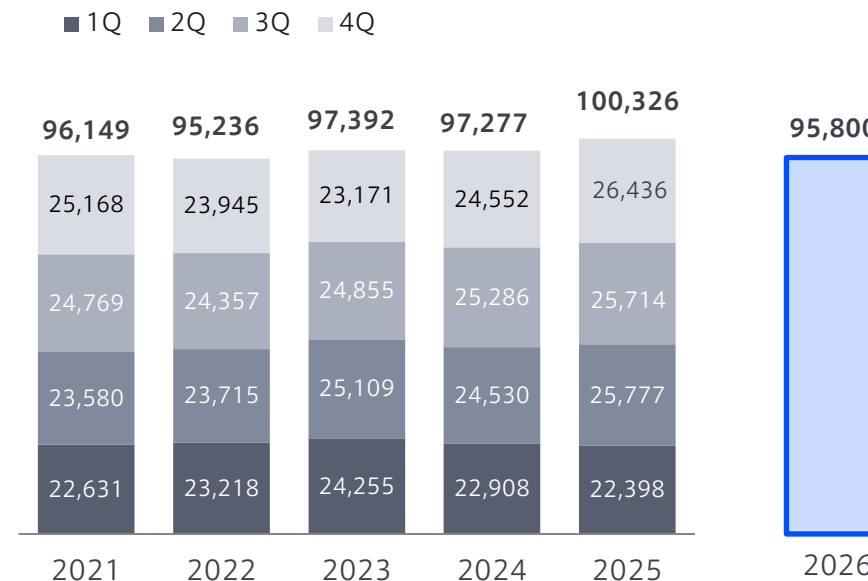
# TBSテレビ 売上高の増減要因



# テレビ番組原価（制作費）

	2024年度	2025年度	前年差	2026年度 見込み
第1四半期	22,908	22,398	▲509	
第2四半期	24,530	25,777	+1,246	
第3四半期	25,286	25,714	+427	
第4四半期	24,552	26,436	+1,884	
通期累計	97,277	100,326	+3,049	95,800

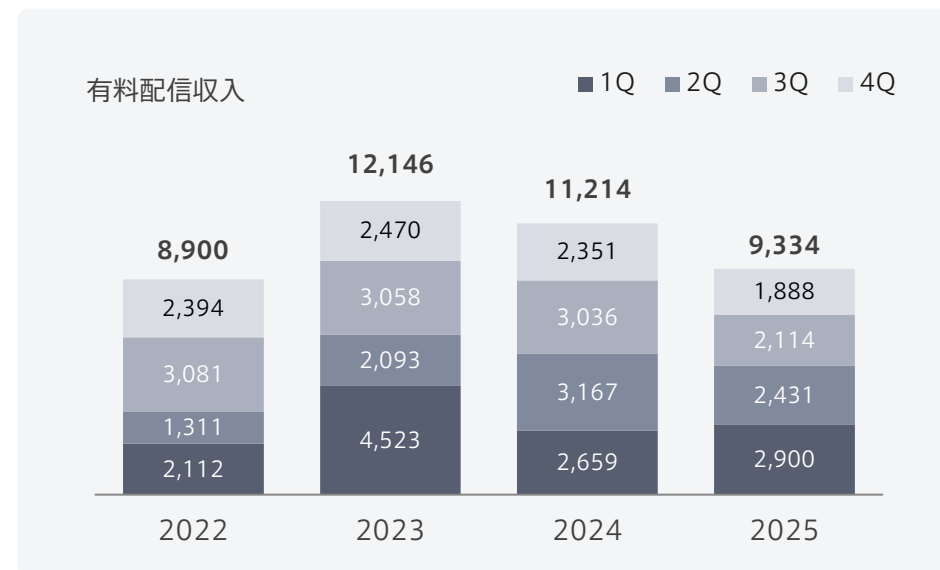
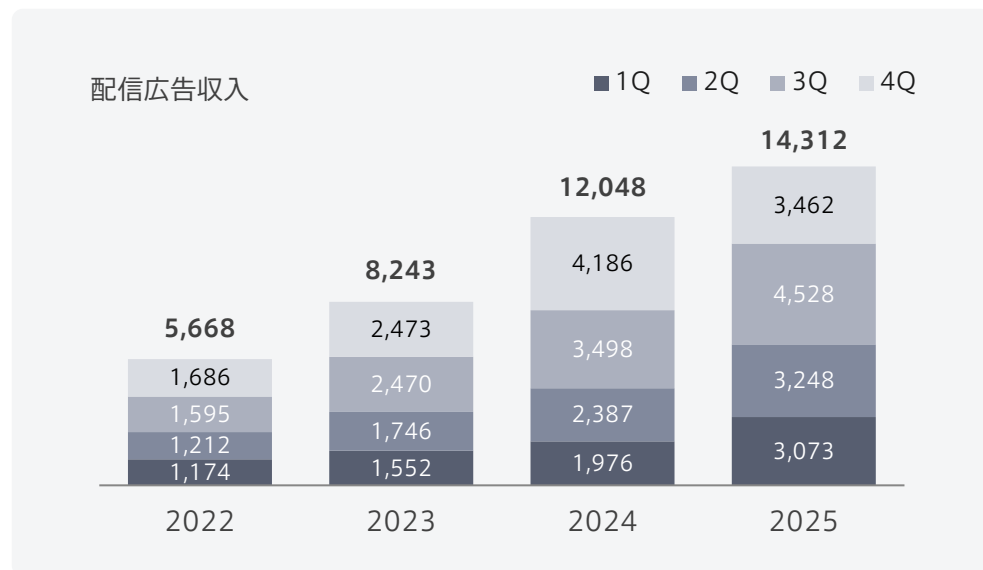
単位：  
百万円



# 配信事業の状況

単位:  
百万円

	2024年度	2025年度	前年差	増減率	主な増減要因
配信広告収入	12,048	14,312	+2,264	+18.8%	ドラマ・バラエティを中心として、好調な再生回数を背景に、増収。
有料配信収入	11,214	9,334	▲1,880	▲16.8%	海外配信の作品数の差などにより、減収。U-NEXTは好調に推移。



# TBSテレビ 事業部門収益

TBS

単位：百万円

部門	売上高			粗利益			主な増減要因
	2024年度	2025年度	前年差	2024年度	2025年度	前年差	
アニメ	1,768	3,198	+1,430	142	▲524	▲667	劇場版アニメの公開や、海外配信の好調により増収も、新作アニメの制作費増加などで、減益。
映画	3,792	5,505	+1,713	1,756	2,640	+883	「TOKYO MER~走る緊急救命室~南海ミッション」の大ヒットや、「グランメゾン・パリ」の配信など二次利用収入により、増収増益。
ライブエンタテインメント	8,117	6,551	▲1,565	305	675	+370	舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」は、歴代キャスト出演などにより前年を上回るも、前年とのイベント数の差により、減収。粗利益は、費用の減少により、増益。
コンテンツビジネス	930	833	▲96	788	647	▲141	DVD販売の減少などにより、減収減益。
グローバルビジネス	1,999	2,701	+702	907	354	▲553	ドラマの海外配信セールスや、IP関連事業が牽引し増収も、「KASSO」の海外イベントなどIP戦略の先行費用により、減益。
その他営業費用				▲1,586	▲1,671	▲84	
部門計	16,609	18,792	+2,183	2,313	2,121	▲192	事業部門全体では、増収減益。

# メディア・コンテンツセグメントの主なグループ会社状況

単位：百万円

	売上高				営業利益				主な増減要因
	2024年度	2025年度	前年差	2026年度 予想	2024年度	2025年度	前年差	2026年度 予想	
TBSラジオ	8,350	8,113	▲236	8,200	173	227	+53	250	放送収入が減少したことなどにより、減収。営業利益は、費用削減もあり、増益。
BS-TBS	16,985	16,901	▲83	17,100	3,020	3,031	+10	3,100	スポット収入が減少し、減収。営業利益は、費用の減少により、増益。
TBSグローディア	30,660	29,798	▲861	30,700	1,339	625	▲713	1,200	ショッピング収入、DVD収入の減少などにより、減収減益。
日音	9,191	9,960	+768	10,300	850	1,010	+160	1,070	邦楽収入が増加したことで、増収増益。
TCエンタテインメント	5,890	5,334	▲555	5,800	176	▲382	▲558	300	DVD販売の減少により、減収減益。

# スタイリングライフグループ

PLAZAは、ヘアケア関連、キャラクター商材の好調により、増収。

BCLは、「乾燥さん」が大幅に伸長し、増収。

グループ全体では、2024年度第1四半期末にライトアップショッピングクラブが連結範囲から除外も、好調なPLAZAやBCLの売上増加に伴い、増収増益。

※1 事業別の売上高は管理会計上の数値。

連結	2024年度	2025年度	前年差
売上高	69,073	69,665	+591
営業利益	4,260	4,339	+79

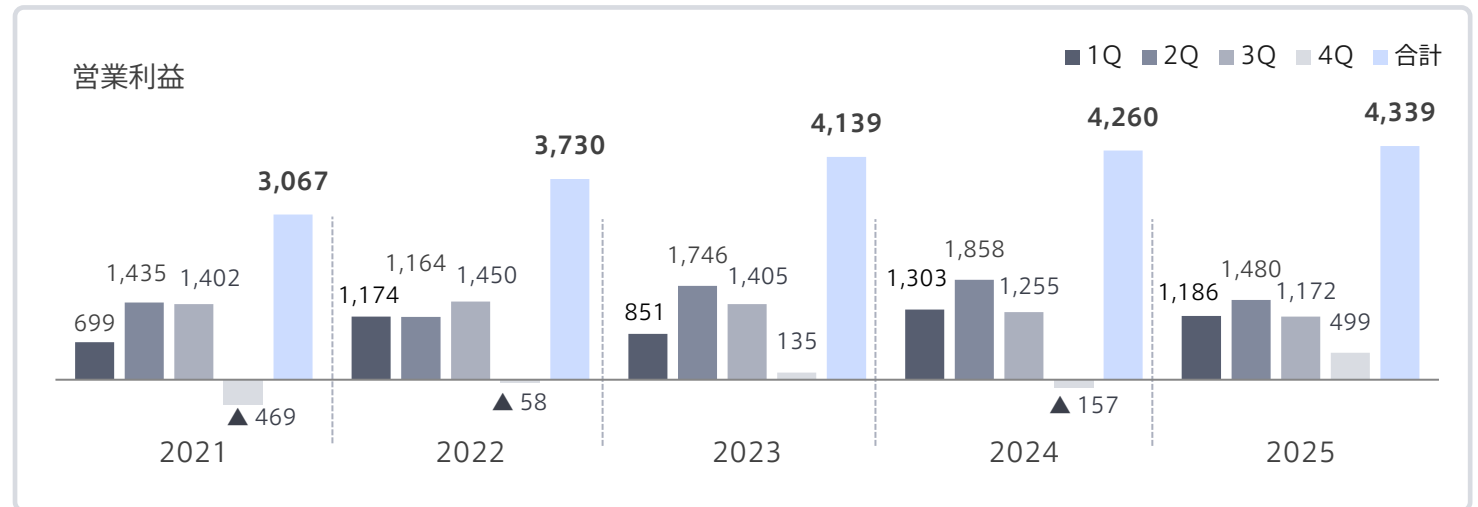
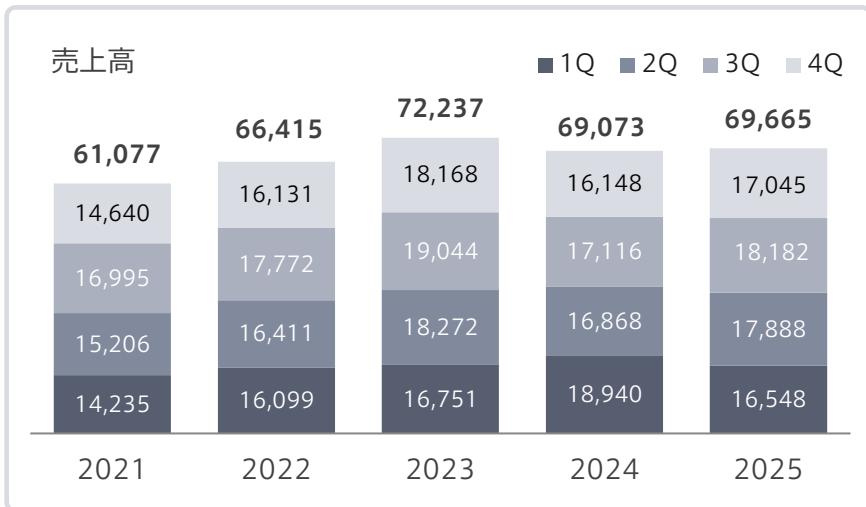
単位:  
百万円

事業別	売上高※1		
	2024年度	2025年度	前年差
PLAZA	47,208	48,892	+1,684
ライトアップ ショッピングクラブ※2	4,153	-	▲4,153
BCL・ CPコスメティクス	17,810	19,741	+1,931
本社およびその他※3	▲97	1,031	+1,128
計	69,073	69,665	+591

単位:  
百万円

※2 ライトアップショッピングクラブは、株式譲渡に伴い、2024年度第1四半期末において、連結範囲から除外。

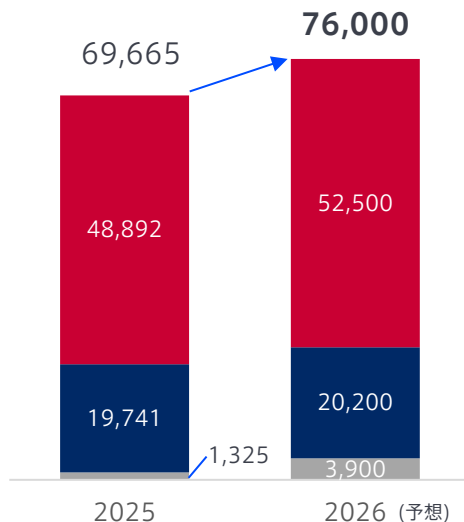
※3 本社およびその他には、Cath Kidstonほか新規事業領域の売上を含む。



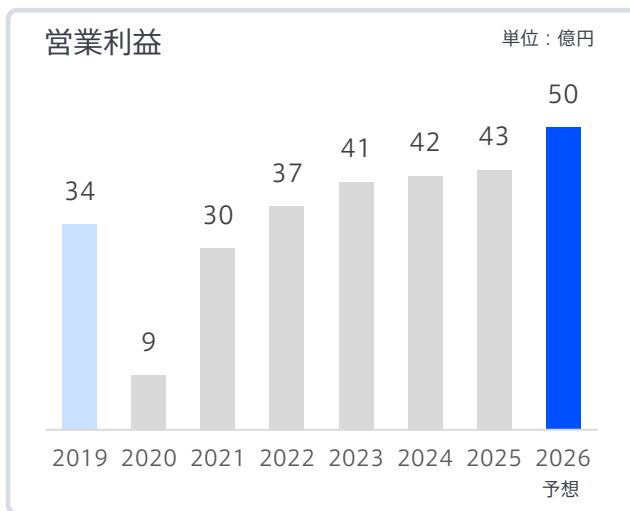
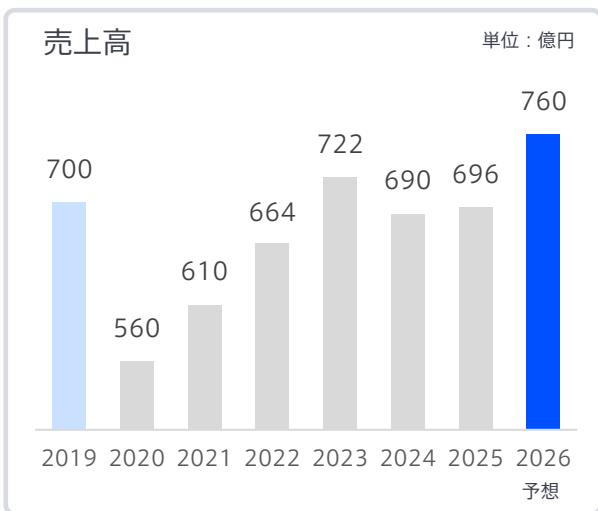
# スタイリングライフグループ 2026年度業績予想

連結	2025年度	2026年度 予想	前年差
売上高	69,665	76,000	+6,334
営業利益	4,339	5,000	+660

■ PLAZA ■ BCL・CPコスメティクス  
■ 新規事業 (Cath Kidston、HAPPY SOCKS、ビコース)  
単位：百万円



※上記グラフの積み上げ数値には連結調整等の数値は記載せず。



PLAZAの伸長、および、ビコースの通年寄与により増収を維持し、新規事業領域の収益化により増益を目指す。

## 雑貨小売事業



150店舗体制に向けた出店加速に加え、オリジナル商品開発とOMO戦略により体験価値の向上に注力。同時に、キャラクターなどの「ライセンス事業」の拡大や、店頭・サイネージ・会員データを活用した「リテールメディア事業」への本格参入など、店舗以外の新たな収益源の創出に取り組む。

## ビューティ & ウェルネス事業



「サボリーノ」「乾燥さん」といった主力ブランドの成長に向け、新商品開発を通じた基盤強化を図るとともに、新たな柱となる新規ブランドの創出に注力。また、化粧品領域のみならず、健康食品や美容家電といった非化粧品領域の事業育成を加速。



若年層へのアプローチを継続的に強化するとともに、新規サロンの積極的な出店を通じてさらなる事業拡大を目指す。

## 新規事業



英国のアートコンセプトを軸に、日英の企画商品をシームレスに統合。ブランドの世界観をより強力に訴求。同時に、積極的な新規出店を加速させ、コア層の回帰と新たな顧客層の獲得を両立。



ギフト需要の確実な獲得により、事業の本格展開を開始。卸売の強化と直営店展開を両輪として、日本市場でのブランド地位の確立と収益拡大を目指す。



通期連結による大幅増収を追い風に、国内外での成長を加速。国内ではコラボ施策やOEM獲得を通じた基盤強化を図り、海外では販路の多角化を推進。

# やる気スイッチグループ

やる気スイッチグループは国際会計基準（以下、IFRS）を適用しており、連結上ではIFRSを日本基準に組み替えた上で、25年3月～26年2月の12か月分を取り込んでいます。

TBS

売上収益は、教室数及び生徒数増加を背景に、フランチャイズ教室（以下、FC教室）の直営化などによる授業料収入の増加、株式会社寺小屋グループの連結などにより、増収。利益面では、従来より推し進めてきた不採算FC教室直営化の取り組みなどの影響により売上高人件費率が高止まりする中、直営教室数増加による運営コストの増加、更には直営教室の売却件数を前期より抑えたことによる事業譲渡益の減少などにより、営業利益で減益。

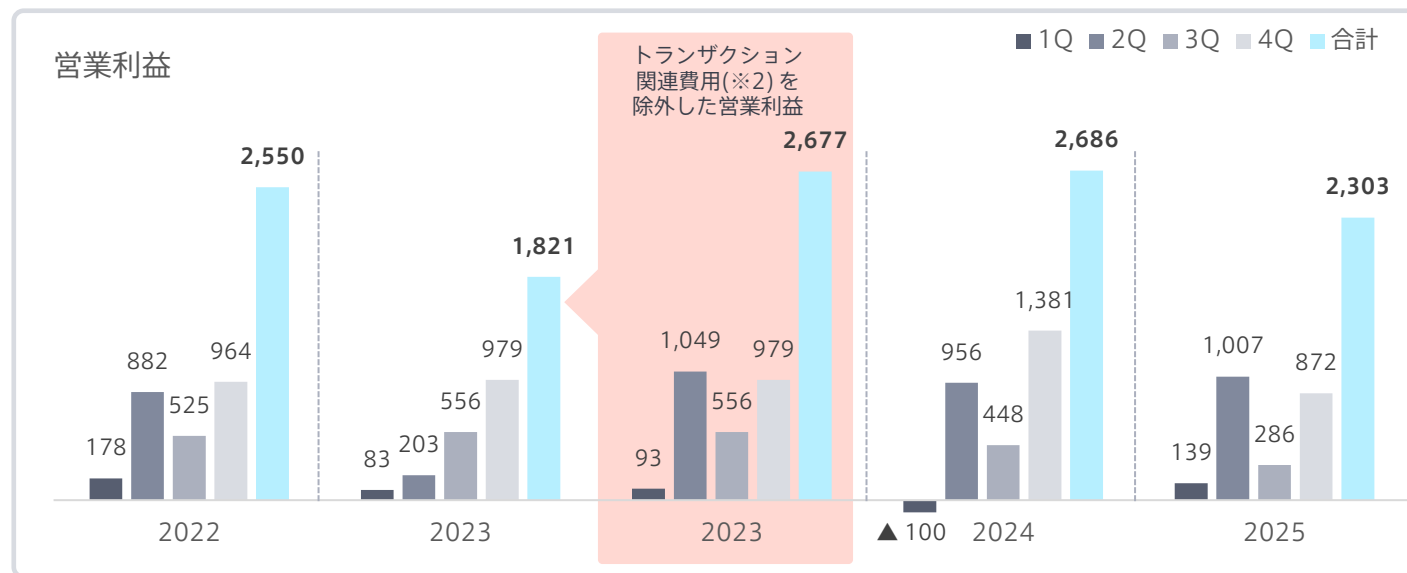
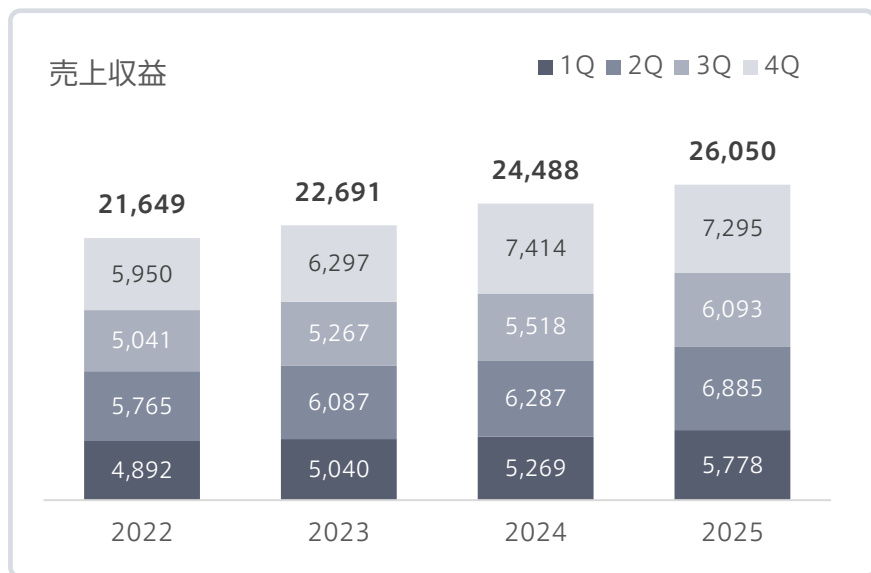
※1 事業別の売上収益は管理会計上の数値。

連結	2024年度 (3-2月)	2025年度 (3-2月)	前年差
売上収益	24,488	26,050	+1,562
営業利益	2,686	2,303	▲383

単位：  
百万円

事業別	売上収益 ※1		
	2024年度 (3-2月)	2025年度 (3-2月)	前年差
個別指導塾事業	11,607	11,556	▲50
幼児教育他事業	12,882	14,494	+1,613
計	24,488	26,050	+1,562

単位：  
百万円



※2 やる気スイッチグループがTBSグループ入りに伴い発生した費用（IFRS）を指し、連結上では日本基準に組み替えて一部を特別損失に計上しています。

# やる気スイッチグループ 2026年度業績予想

連結	2025年度 (3-2月)	2026年度 (3-2月) 予想	前年差
売上収益	26,050	<b>28,900</b>	+2,850
営業利益	2,303	<b>3,100</b>	+797

単位:  
百万円

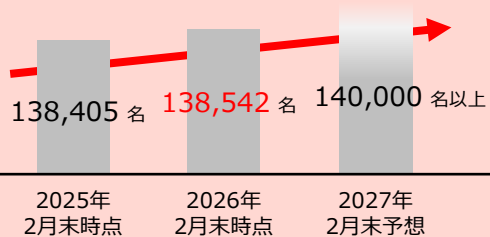
やる気スイッチグループは 国際会計基準 (以下、IFRS) を適用しております。

## 教室数および生徒数推移

### 教室数推移

2025年2月末時点 **2,478** 校 → 2026年2月末時点 **2,489** 校

### 生徒数推移



『**持続可能な成長体制の再構築**』を全社最重点テーマに位置付け、  
必要な投資を優先実行しつつ、持続的な成長を継続する

## 2026年度の主な取り組み

### 営業利益率

- ✓ 新規開校推進
- ✓ 入会者数向上

- 生産性向上などによる既存教室の収益性改善
- 1教室あたりの生徒数増加
- 教室再生ビジネス※1を推進し2026年度は教室売却をより強化

- コンテンツ・サービス開発の推進
- M&A活用の検討
- グローバル展開の検討・推進
- JNN系列局のフランチャイジー化推進

### 売上収益

- ✓ ガバナンス強化
- ✓ 安心安全な教室作り

- 教室巡回・モニタリング強化
- リスクの事前検知機能の構築
- 再発防止策の徹底
- FC教室の新規開校基準の厳格化

※1 不採算FC教室を直営化し、生産性向上などにより早期収益性改善を図り、再びフランチャイズオーナーへ教室売却するサイクルを指す

## 2025年度の振り返り



▲ TBSと共同制作 英語×幼児教育番組『リッスン♪  
リッスン Hello English!』放送開始

▲ 総合教育企業のやる気スイッチとリアブロードは  
資本業務提携を締結し、教育と留学を融合した新たな  
学びの提供に向けた取り組みを開始

2025年度 通期決算ハイライト

**▶TBSグループ中期経営計画2026のアップデート**

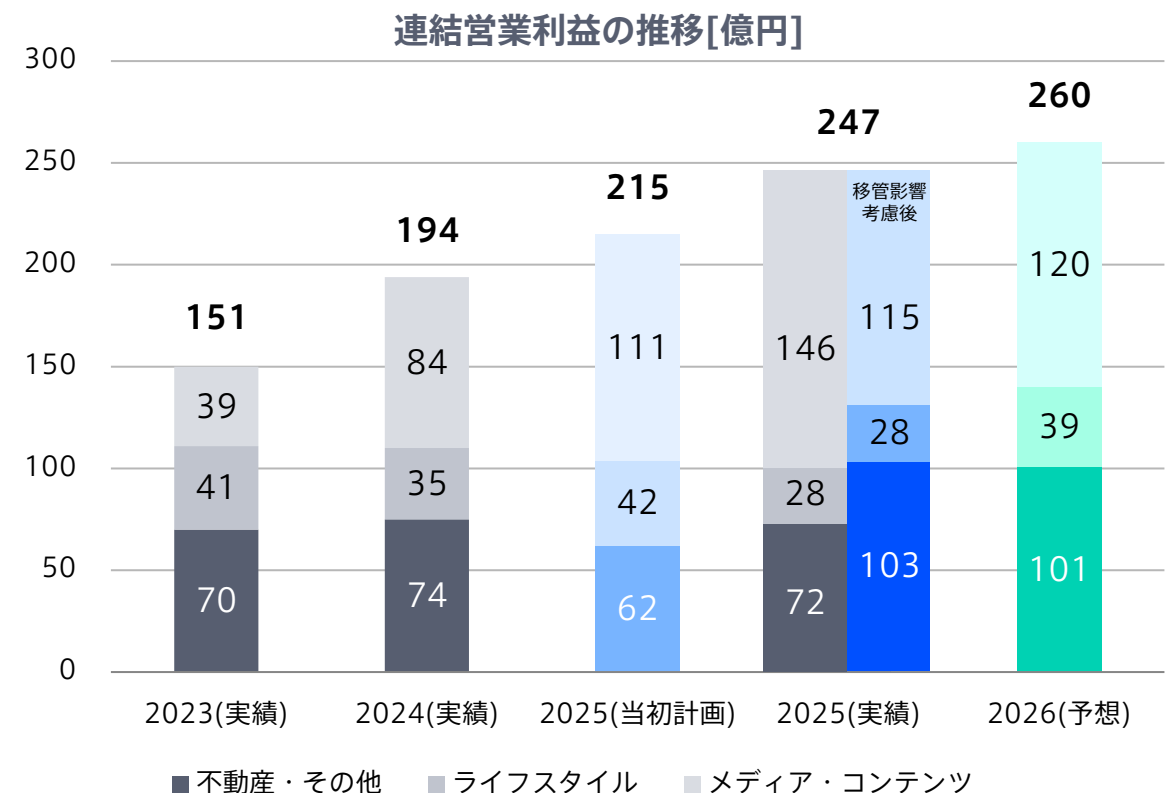
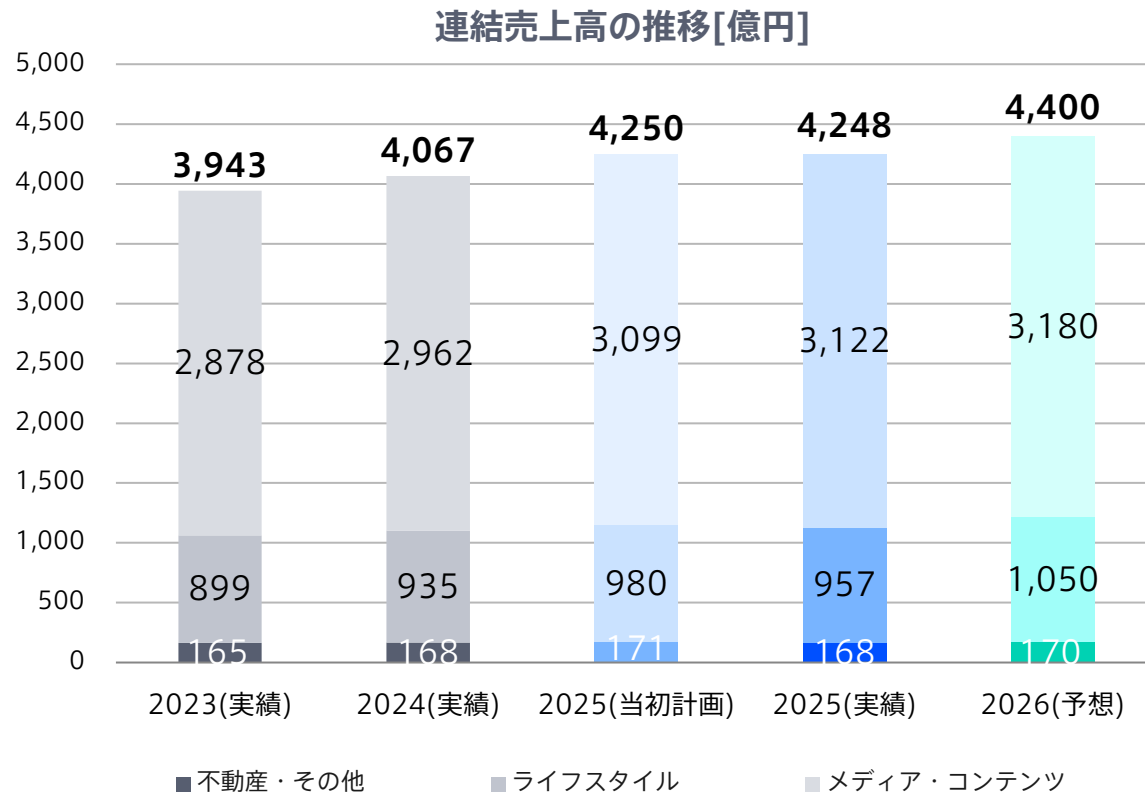
2026年度 業績見通し

その他トピックス

参考資料

# 売上高及び営業利益の進捗状況

- 2025年度は売上高4,248億円/営業利益247億円となり、対前年度で売上高+181億円/営業利益+52億円、対当初計画で売上高▲1億円/営業利益+32億円。
- 営業利益については、中計2026で掲げた目標を1年前倒しで達成したため、中計2026をアップデート。2026年度は売上高4,400億円/営業利益260億円の予想。



注) 2025年度実績および2026年度予想は、TBS放送センターのTV社からHD社への移管影響を考慮した数字。

## 資本効率の向上を目指すKPI（ROIC）の進捗

- 中計2026より資本効率を意識した経営を推進するためにROICを指標として導入。
- 大型投資等の実施により、投下資本の拡大が先行している部分はあるものの、概ね計画通りに進捗。
- 次期中計からはセグメント別に資本効率を管理すべく、現在セグメントの見直しを検討中。

	2023年度 (実績)	2024年度 (実績)	2025年度 (当初計画)	2025年度 (実績)	2026年度 (予想)	2030年度 (目標)
売上高[億円]	3,943	4,067	4,250	<b>4,248</b>	<b>4,400</b>	5,500
営業利益[億円]	151	194	215	<b>247</b>	<b>260</b>	385
営業利益率[%]	3.85%	4.79%	5.06%	<b>5.83%</b>	<b>5.91%</b>	7.00%
ROIC[%]	2.6%	3.1%	3.2%	<b>3.8%</b>	<b>3.8%</b>	5.0%

収益基盤の再構成により、2030年度までにROIC 5%以上を目指します。

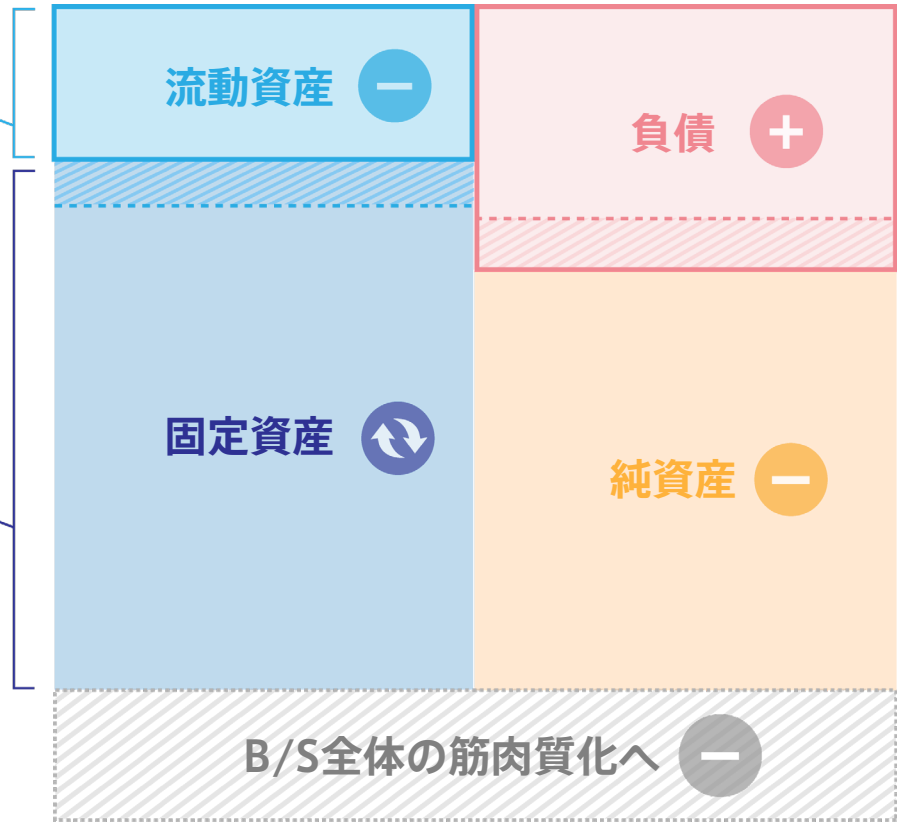
# 将来的に目指すB/Sの姿に向けた戦略的アプローチの推進

## 基本方針

引き続き、収益基盤の強化と積極的な成長戦略投資に最優先で取り組みつつも、資本効率を意識した経営をより一層推進するため、B/S全体の再点検を行い、筋肉質な体質にするための取り組みを加速。

運転資本回転率の改善による圧縮

成長を加速するために、  
不断の見直しにより、  
ポートフォリオを入替え



営業キャッシュ・フロー水準を踏まえつつも、WACCの低減のために、積極的な負債調達を活用

ROEの向上に向けて、適切な自己資本規模を模索し、規律のある資本コントロールに責任を果たす。

# 資本効率を意識した経営の更なる推進に向けて

主にEDGE/成長領域

**積極的な成長投資で**

営業キャッシュ・フローの連鎖を  
生み出し、営業利益を伸長

**ROIC**

利益

投下資本

セグメント別ROIC管理を見据え  
**セグメント毎の投下資本見直し**  
(TBS放送センター移管など)

主にメディア・コンテンツセグメント

主に不動産・その他セグメント

負債調達の拡大により**WACCを低減**

手元資金の活用

**WACC**

資本規模適正化に向けて  
**株主還元等の強化**  
(配当/自己株式取得等)

B/S全体

# キャピタル・アロケーションの更新

投資有価証券の売却が目標を超えること、及び、2027年度から真のROIC経営を推進するうえで、2026年度を「B/S右側の整理に着手するフェーズ」と位置づけ、キャピタル・アロケーション全体の見直しを実施

## キャッシュ・イン

- 1 次期中計からのセグメント別ROIC経営を見据え、WACCを適切に管理するために、**セグメント毎の投下資本の見直しに着手**。赤坂二・六丁目地区開発計画における資金調達を全面的に見直し、**負債調達を440億円から、840億円に拡大**。
- 2 2年間及び決算発表時点までの売却実績を踏まえ、中計2026期間中の**売却規模を更に拡大し、1,350億円へ**。  
引き続き、**成長投資の進捗によって機動的に対応**。
- 3 足元の好調な業績や成長投資リターンによる営業キャッシュ・フロー拡大に取り組むも、政策保有株式の売却増による税負担増や、売上規模拡大に伴う一時的な運転資本の増加等により、計画を下方修正し、610億円へ

## 中計2026(計画) 今後の想定

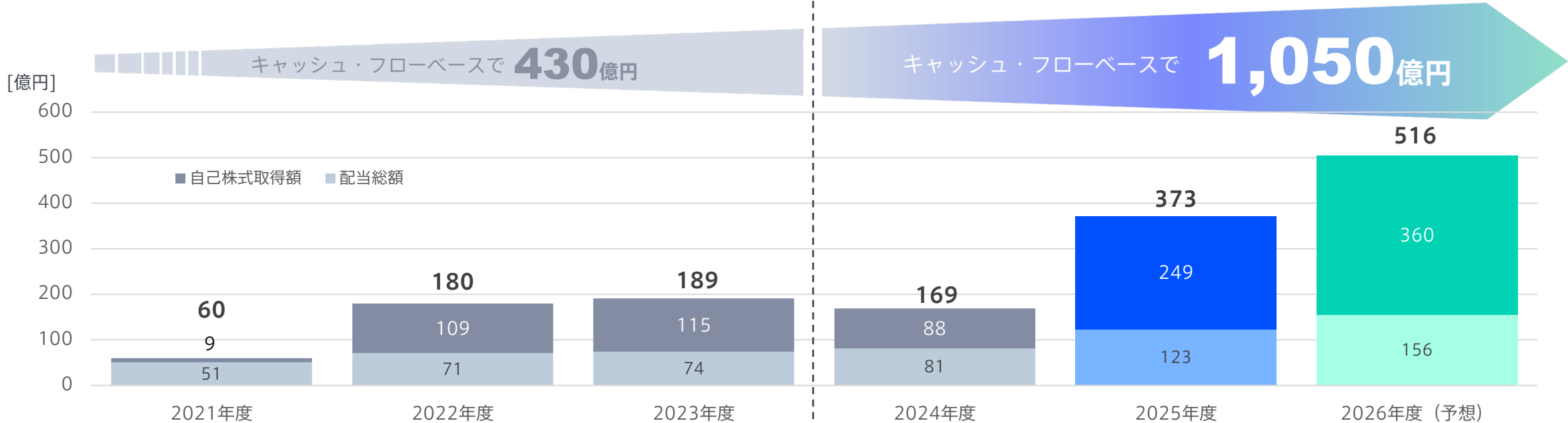


## キャッシュ配分

- 4 **コンテンツIPの獲得・拡大に向けた投資**  
(株)SAND B設立  
(株)ケイコンテンツ子会社化  
(株)WACUL子会社化  
**グローバルビジネス元年の推進**  
Legendary Entertainmentへの出資  
韓国CJ ENM 及びU-NEXT HOLDINGSと合併会社設立
  - 5 **ライフスタイル事業の拡大**  
(株)スタイリングライフ・ホールディングス完全子会社化  
EduTainmentの事業開発/拡大等  
合計**714億円**の成長投資を実施済み
- 5 企業価値の向上を通じた株主還元積極的に取り組み、2025年度は中計2026の計画の一部を前倒しで達成したことも踏まえ、**還元規模を拡大し、3年間総額で1,050億円へ**。

# 中計2026アップデートにおける積極的な株主還元のポイント

- ROIC経営推進にあたって投下資本及び資本コストの管理に取り組む必要があること、並びに、コンテンツIP等への成長投資については、営業キャッシュ・フロー拡大の連鎖を生み出すまでに一定の時間を要する性質もあることも踏まえ、成長投資と株主還元を適切なバランスにより推進し、自律的な自己資本のコントロールに取り組む。
- 従来の配当方針は維持しつつも、キャピタル・アロケーションの見直しを踏まえ、当初計画より450億円（11月公表値よりも250億円）拡大。より積極的な株主還元を通じて、当社の企業価値及び株主の皆様の共同の利益を確保し、向上させる。



一株当たり

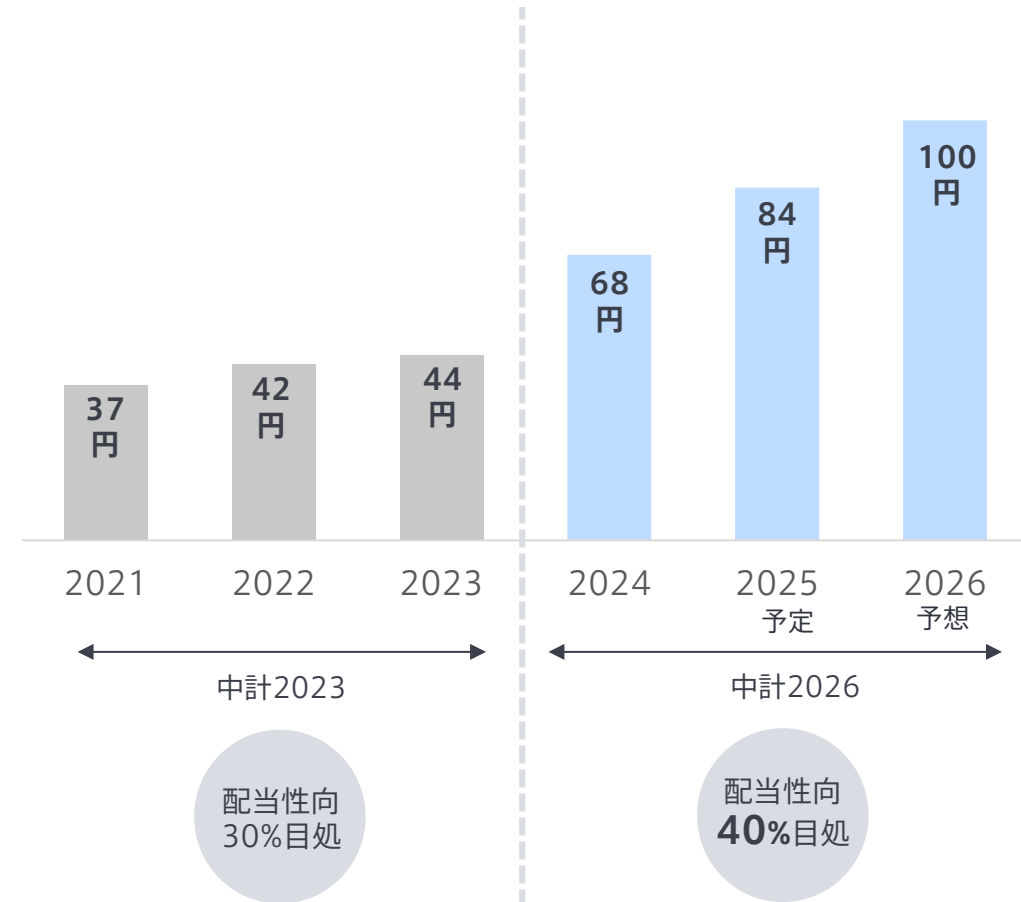
20年度期末	15円/株	21年度期末	22円/株	22年度期末	22円/株	23年度期末	22円/株	24年度期末	41円/株	25年度期末	49円/株
21年度中間	15円/株	22年度中間	20円/株	23年度中間	22円/株	24年度中間	27円/株	25年度中間	35円/株	26年度中間	50円/株

# 株主還元方針と年間配当予想

基本方針 連結ベースの配当性向**40%**を目処として、安定的かつ継続的に配当を実施するとともに、**総還元性向**を意識したうえで、自己株式の取得も機動的に実施します。

25年度の1株当たり期末配当金について、直近に公表していた予想配当金額を11円上回る、49円とし、中間配当金と合わせて、年間配当金は84円の予定。  
26年度は、中間配当金50円、期末配当金50円、年間配当金100円の予想。

	1株当たり配当金 (円)			配当性向 (%)	特殊な要因*の影響を除いた配当性向 (%)
	中間	期末	年間		
2021年度	15	22	37	19.7	30.9
2022年度	20	22	42	20.1	30.3
2023年度	22	22	44	18.9	34.4
2024年度	27	41	68	24.9	38.9
<b>2025年度 (予定)</b>	<b>35</b>	<b>49</b>	<b>84</b>	<b>25.3</b>	<b>43.1</b>
<b>2026年度 (予想)</b>	<b>50</b>	<b>50</b>	<b>100</b>	<b>32.4</b>	<b>40% 目処</b>

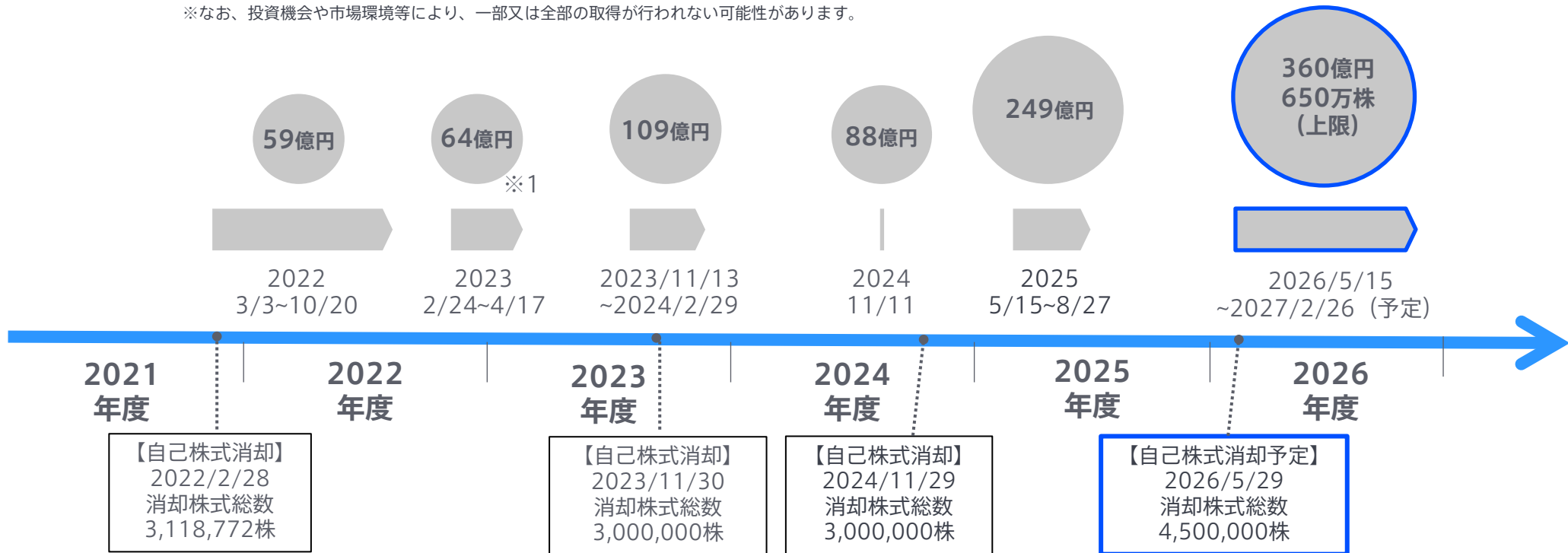


\* 成長投資の源泉として売却した投資有価証券から生じる特別損益等を、配当額を決定する上では「特殊な要因」と位置付ける。

# 自己株式取得

自己株式の取得に関する決議内容	
取得対象株式	当社普通株式
取得株式の総数	6,500,000株（上限） （発行済み株式総数（自己株式を除く）に対する割合4.05%）
取得価額の総額	36,000,000,000円（上限）
取得の方法	(1) 取引一任方式による東京証券取引所における市場買付け (2) 自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による市場買付け
取得期間	2026年5月15日～2027年2月26日

※なお、投資機会や市場環境等により、一部又は全部の取得が行われない可能性があります。



※1 当社が資金を拠出し、株式付与ESOP信託が所有する株式

# EDGE戦略の推進に向けた取り組み

## 基本方針

コンテンツIPに「レバレッジ」を掛け、EDGEの成長を加速 という方針のもと、コンテンツIPの強化、グローバル事業の展開「グローバルビジネス元年」に資する種まきをはじめとして、成長投資を積極的に推進中。

中計2026：成長を加速する投資を1,600億円規模実施

### コンテンツIP企画・制作力強化

オリジナルIPの開発・獲得 (M&Aによる獲得を含む)

ハイエンドコンテンツ制作のための最先端技術 (VFX/AI等)

### EDGE戦略の推進

コンテンツIPのグローバル展開

エクスペリエンス領域の更なる拡充

EduTainment事業の更なる拡充

顧客とコンテンツをつなぐTBSグループIDを拡大

持続可能な社会への貢献

人的資本拡充/DXに資する設備投資

省エネ/GXに資する設備投資

グローバルでのコンテンツIP開発・製作体制の確立に向けた協業体制の構築



- ・ Legendary Entertainmentとの戦略的パートナーシップ
- ・ CJ ENM及びU-NEXT HDとの合併によるStudioMonowaの設立 等



2028年度の竣工に向けて、赤坂エンタテインメント・シティ計画を着実に推進中



コンテンツIPの獲得・展開を強化するSAND Bで複数のIP獲得を実施



実社会に紐づく学びによる学習意欲の向上や主体的・対話的で深い学びを実現するためのEduTainment事業を推進

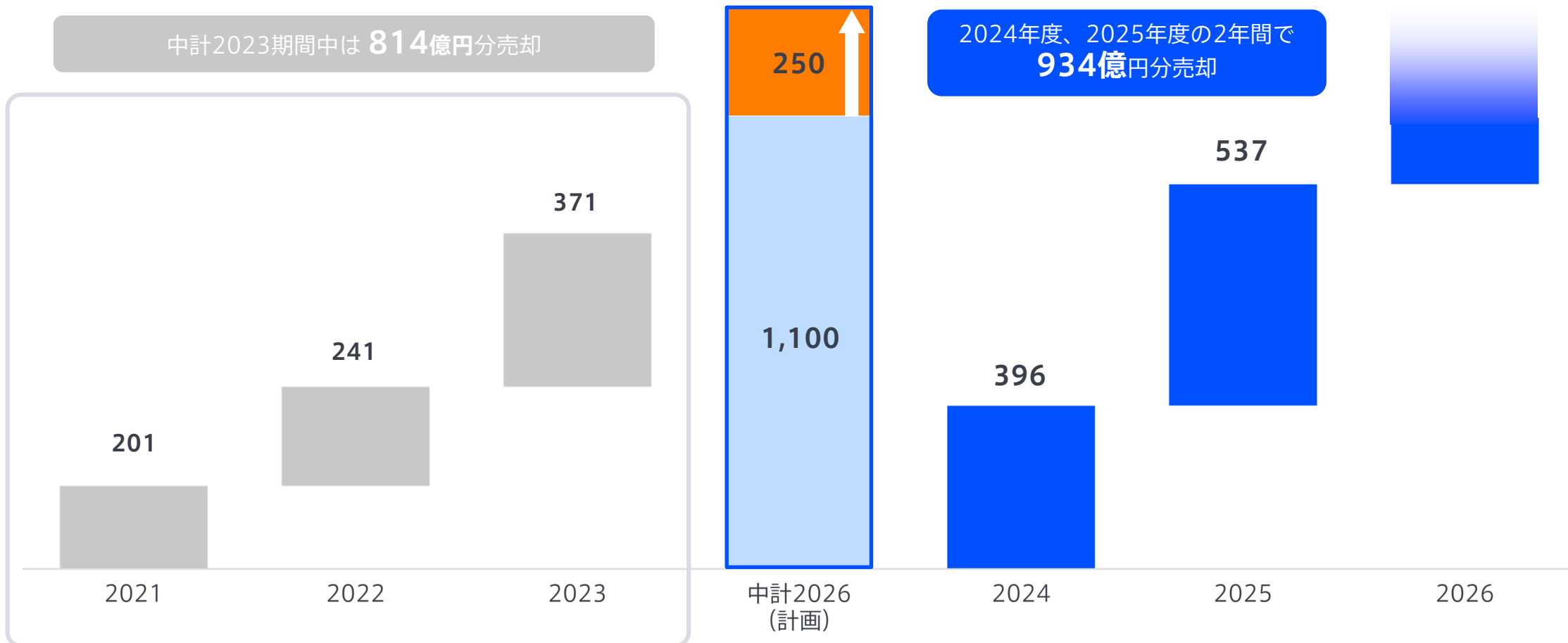
# 政策保有株式売却

進捗状況を踏まえ  
1,350億円に更新

単位：億円

中計2023期間中は 814億円分売却

2024年度、2025年度の2年間で  
934億円分売却



2025年度 通期決算ハイライト

TBSグループ中期経営計画2026のアップデート

**▶ 2026年度 業績見通し**

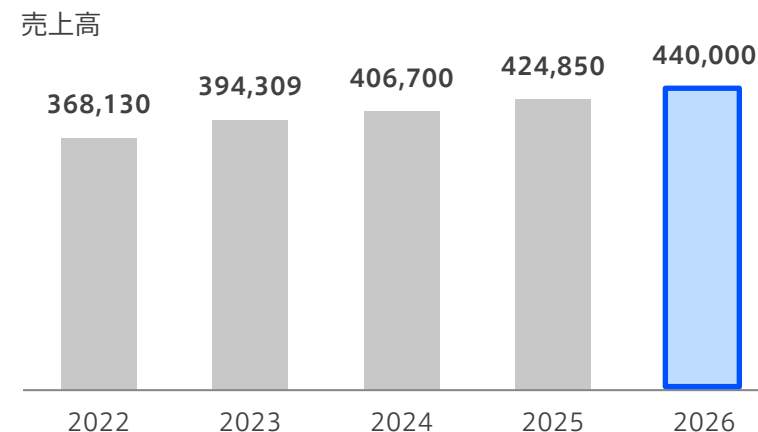
その他トピックス

参考資料

# 2026年度 連結業績予想

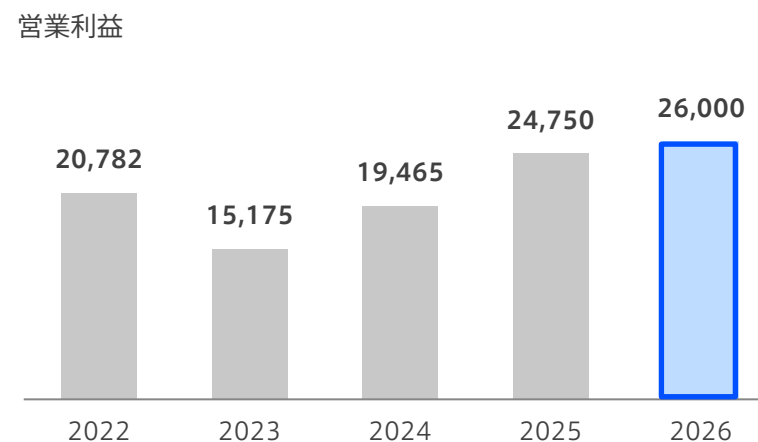
連結	2025年度実績	2026年度予想	前年差
売上高	424,850	440,000	+15,149
営業利益	24,750	26,000	+1,249
経常利益	37,373	39,000	+1,626
親会社株主に帰属する当期純利益	52,228	48,500	▲3,728

単位:  
百万円



セグメント別	売上高			営業利益		
	2025年度実績	2026年度予想	前年差	2025年度実績※	2026年度予想	前年差
メディア・コンテンツ	312,237	318,000	+5,762	11,567	12,000	+432
ライフスタイル	95,724	105,000	+9,275	2,866	3,900	+1,033
不動産・その他	16,888	17,000	+111	10,316	10,100	▲216
調整額	-	-	-	▲0	-	+0
連結	424,850	440,000	+15,149	24,750	26,000	+1,249

単位:  
百万円



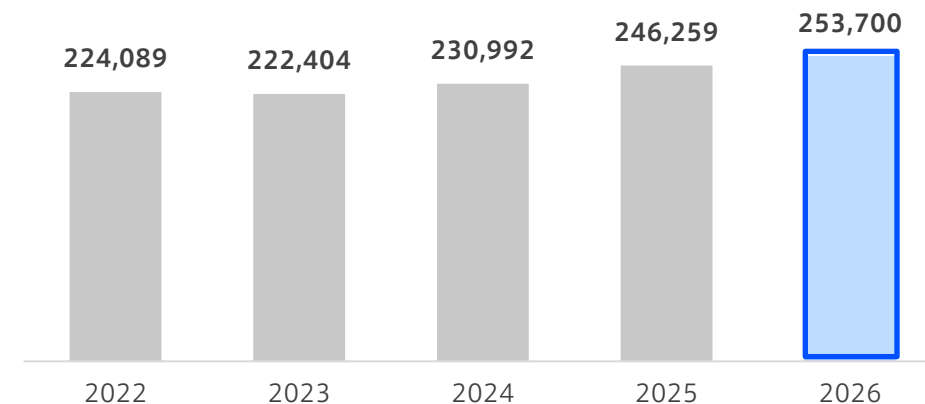
※セグメント別の2025年度実績の数値は、TBS放送センター移管後の数値に組み替えて算出。

# 2026年度 TBSテレビ業績予想

TBSテレビ	2025年度 実績	2026年度 予想	前年差
売上高	246,259	253,700	+7,440
営業利益	16,820	15,000	▲1,820
経常利益	18,912	17,000	▲1,912
当期純利益	39,966	15,300	▲24,666

単位:  
百万円

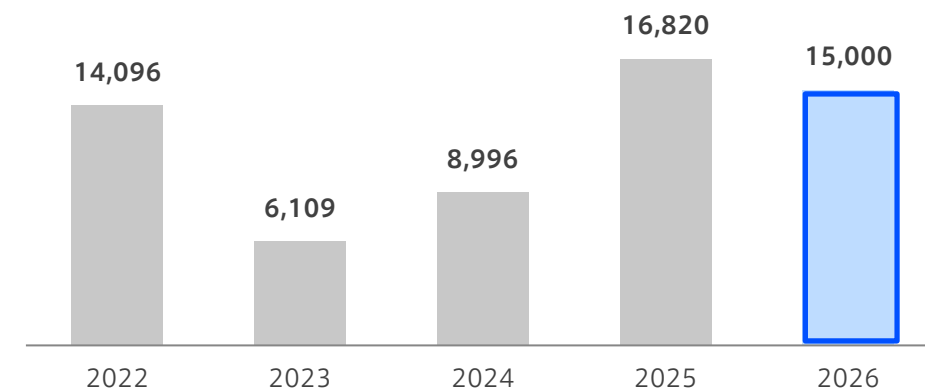
売上高



	2025年度 実績	2026年度 予想	前年差	増減率
タイム	88,650	85,800	▲2,850	▲3.2%
スポット	87,413	87,700	+286	+0.3%
配信広告収入	14,312	17,200	+2,887	+20.2%
番組原価	100,326	95,800	▲4,526	▲4.5%

単位:  
百万円

営業利益



2025年度 通期決算ハイライト

TBSグループ中期経営計画2026のアップデート

2026年度 業績見通し

## ▶その他トピックス

参考資料

# LTV4-59戦略の成果

※LTV4-59：男女4-59歳の個人視聴率

TBS

(※ [ ]内は前年差 単位：%)

全日

ゴールデン

プライム

ノンプライム

TBS	1.9 [+0.1] ↑	3.9 [+0.3] ↑	3.7 [+0.2] ↑	1.3 [0.0]
PUT	10.2 [▲0.4] ↓	19.1 [▲0.5] ↓	18.0 [▲0.6] ↓	8.0 [▲0.4] ↓

(2025/3/31 ~ 2026/3/29 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

## 強い曜日の増加

(前年差 単位：%)

### 火曜日

19時	THE神業チャレンジ	+0.3
20時	バナナサンド	+0.6
21時	マツコの知らない世界	+0.3
22時	火曜ドラマ (4ドラマ平均)	0.0

### 水曜日

19時	世界くらべてみたら	+0.8
20時	それって実際どうなの会	+0.6
21時	ニノなのに	+1.1
22時	水曜日のダウンタウン	+0.5

編成戦略の成功により、G・P帯における強いレギュラー番組が増加

## 朝・帯番組の視聴率向上

(前年差 単位：%)

朝	THE TIME, 6時台	+0.1
	THE TIME, 7時台	+0.2



リブランディングを行い、視聴者の声に向き合う番組構成への変更により視聴率上昇

## 話題を呼んだドラマ

日曜劇場「リポート」



SNS上で考察合戦が繰り広げられ、視聴者参加型のイベントに派生

「じゃあ、あんたが作ってみろよ」



配信ではTBS歴代1位の平均再生回数470万回を記録

## 東京2025世界陸上の成功



累計視聴人数

7,977万人

G帯 7.4% P帯 7.5%

陸上に関心の薄い層をも巻き込み、国民的熱狂と社会現象を創出。日本全国、全世代に届く「地上波の圧倒的なリーチ力」を示した。

# 編成戦略① ～強い曜日の増加～

「タテの流れを意識し、勝てる曜を増やしていく」編成方針が成功し  
LTV4-59で1位をとる「強い曜日」が増加。帯番組も着実に成長。

	火曜			水曜		
19時		THE神業チャレンジ	+0.3		世界くらべてみたら	+0.8
20時		バナナサンド	+0.6		巷のウワサ大検証! それって実際どうなの会	+0.6
21時		マツコの知らない世界	+0.3		ニノなのに	+1.1
22時		火曜ドラマ (4ドラマ平均)	0.0		水曜日のダウンタウン	+0.5

(LTV4-59前年差 単位：%)

(LTV4-59前年差 単位：%)

## THE TIME,

リブランディング等により  
着実に視聴率は上昇



THE TIME, 6時台	+0.1
THE TIME, 7時台	+0.2

(前年差 単位：%)

# 編成戦略② ～2026年4月期改編～

## 2026年4月期改編

月曜よる9:00

テレビ×ミセス



Mrs. GREEN APPLEが歌やトーク、コントやゲームで日本を明るくするコラボバラエティ！

月曜よる10:00

プロフェッショナルランキング



その道の専門家がプロ目線で選ぶ！ネットでは出てこない本当のランキングをお届け！

日曜ひる11:35

上田晋也のサンデーQ



ニュースの疑問を専門家にぶつけて理解する、初心者目線のニュースショー

## 2026年度4月期ドラマ

火曜ドラマ

時すでにおスシ!?



金曜ドラマ

田鎖ブラザーズ



日曜劇場

GIFT



# テレビの力 ～東京2025世界陸上の成功～

ネットは関心層に強いが、地上波は圧倒的なリーチ力で「未開拓の潜在需要を掘り起こす」。

東京2025世界陸上は、リアルタイムの感動共有と強力なプロモーション体制で、陸上に関心の薄い層をも巻き込み「社会現象化」させ、国立競技場に約62万人動員する熱狂を創出し、視聴者の行動変容を促進。

累計視聴人数

7,977万人

LTV4-59

G帯7.4% P帯7.5%  
瞬間最高視聴率16.3%

TVer

Special Live配信  
760万回再生

日本陸上競技史上最高記録となる  
約62万人を動員

東京2025世界陸上

社会現象化

行動変容

リアルタイムの感動共有と  
強力なプロモーション体制

Q.あなたが「東京2025世界陸上」に関して、  
情報に触れたものをすべてお知らせください。



- |                |       |
|----------------|-------|
| 1. テレビの試合中継／告知 | 71.9% |
| 2. スポーツニュース番組  | 50.8% |
| 3. 新聞の記事       | 14.4% |
| 4. Webの記事      | 12.6% |

Q.「東京2025世界陸上」を観戦して、あなたの  
生活への変化や影響を受けたことはありますか。

24.0%



選手の活躍や、  
大会運営に感動し  
勇気もらった

21.2%



陸上やスポーツ  
全般への関心が  
高まった

18.4%



日本や東京で  
開催されたことに  
誇りを感じた

2025年9月13日（土）～21日（日）  
@国立競技場（現MUFGスタジアム）

# メディア環境

単位：百万円

(※ [ ] 内は1段目が前年差、2段目が前年比)

TBSテレビ	2024年度	2025年度	2026年度 予想
放送収入	163,620 [+4,252] [+2.7%]	176,063 [+12,443] [+7.6%]	173,500 [▲2,563] [▲1.5%]
タイム	81,264 [▲325] [▲0.4%]	88,650 [+7,386] [+9.1%]	85,800 [▲2,850] [▲3.2%]
スポット	82,355 [+4,578] [+5.9%]	87,413 [+5,057] [+6.1%]	87,700 [+286] [+0.3%]
配信広告収入	12,048 [+3,805] [+46.2%]	14,312 [+2,264] [+18.8%]	17,200 [+2,887] [+20.2%]

## 2025年（1月～12月）の広告費

地上波テレビ 前年比 ▲0.1%  
 テレビメディア関連動画広告 前年比 +23.3%

※出典：「2025年 日本の広告費」

TBS

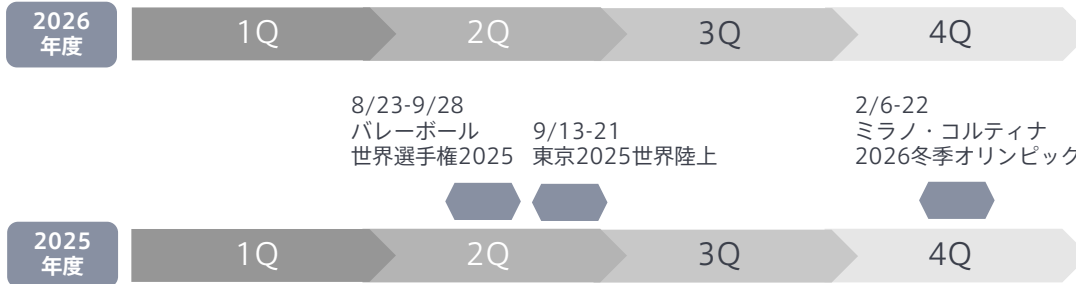
## 2026年度 編成予定スポーツ単発

(毎年度編成するものを除く)

### アジア大会 愛知・名古屋

32年ぶりの日本開催！  
 4年に一度のアジア最大のスポーツ  
 の祭典を生中継。

開催期間：9/19-10/4



2026年5月14日現在

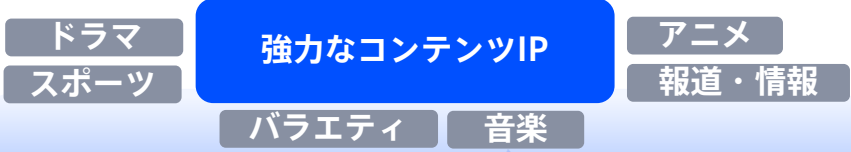
## 日曜劇場「VIVANT」続編

日曜劇場「VIVANT」続編が7月放送  
 開始！2クール連続放送が決定。

続編放送に先駆けて、  
 2023年放送の「VIVANT」を  
 TVer、TBS FREEで期間限定配信中。



# コンテンツのタイムレスバリュー



### 配信 2年連続 TVer三冠達成

**TVer** **三冠達成**

総再生回数 約**10億9,200万回**  
 UB数 約**4,900万UB**  
 総再生時間 約**5億500万時間**

「じゃあ、あんたが作ってみよう」 「水曜日のダウンタウン」

6,000万回再生 (2025年度)      1億2,000万回再生 (2025年度)

出典：株式会社U-NEXT HOLDINGS 2026年8月期 第2四半期決算説明資料

### U-NEXT 課金ユーザー数 515万人

・TBS×U-NEXT×THE SEVEN グローバルプロジェクト  
 「ちるらん 新撰組鎮魂歌」  
 ・2夜連続地上波放送後、U-NEXTにて独占配信  
 ・5/9よりHBO Maxを通じて世界配信

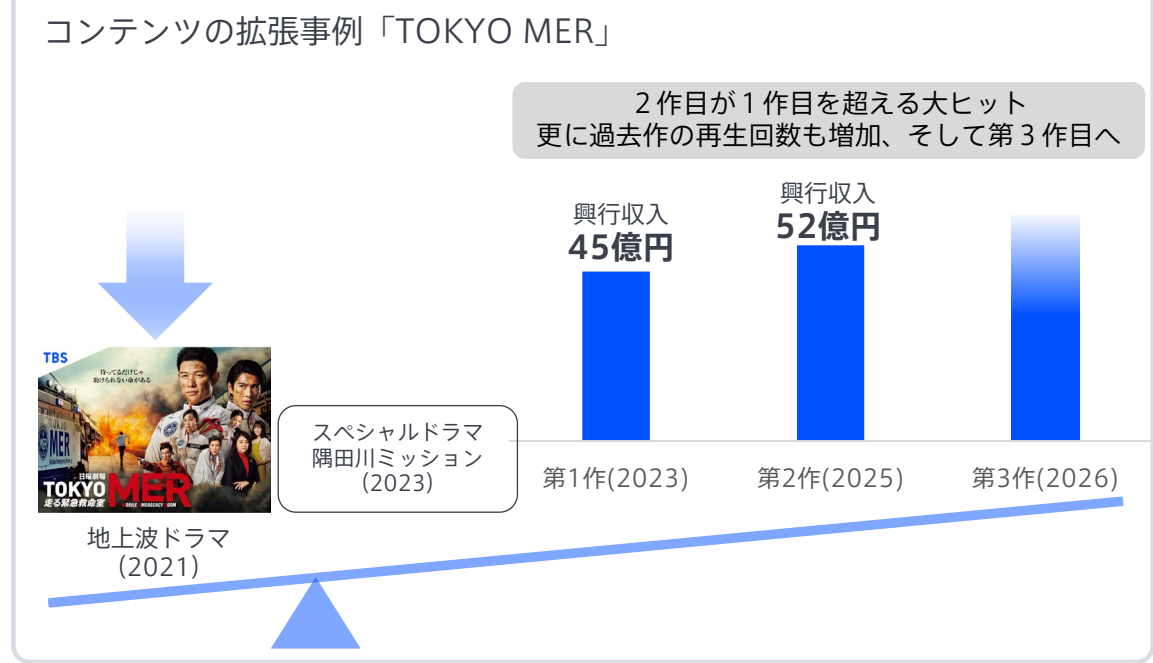
### イベント 番組派生のイベント好調

「ラヴィット!ロック 2025」 「CDTVライブ!ライブ!春の大感謝祭2026」 「『リブート』裏切り者サミット」

### 映画

劇場版「TOKYO MER ~走る緊急救命室~南海ミッション」 「映画ラストマン -FIRST LOVE-」

ドラマ派生映画  
大ヒット継続中



# AI活用

AIを「クリエイティブの限界を突破するエンジン」と位置付け、「生成AIの民主化」を掲げた全社横断のAI活用プロジェクトを推進。「攻め」と「守り」を両輪とした施策を展開。社員一人当たりの業務時間効率化を図る。

## 攻めのAI活用

- ・2023年7月 「AI活用プロジェクト」を発足  
CTOを委員長とし、全社横断の現場メンバー30名が活動
- ・ドラマ制作への動画生成AI導入  
日曜劇場「VIVANT」で制作行程の一部に「Veo 3」を導入  
→クリエイターのビジョン拡張、CG制作費・労務時間削減
- ・「東京2025世界陸上」でのAIによる業務効率化  
スタートリスト作成に「Gemini」を導入  
→英語PDFの自動読み込み・日本語変換で作業量大幅削減



「VIVANT」



「東京2025世界陸上」

## 守り ガバナンス体制確立

- ・2023年7月 生成AIガイドライン制定
- ・2025年7月 生成AIガイドライン改定  
→「慎重に、限定的に使う」姿勢から、「リスク管理を強化しつつ、AI時代における競争力を高める」姿勢へ
- ・2025年10月 JDLA（日本ディープラーニング協会）幫助会員に  
→放送業界で初めて加盟。  
AI人材育成やAI倫理、ガバナンスの知見を取り込み責任あるAI活用を推進
- ・2026年4月 AIガバナンス委員会を新設  
→AI技術によるイノベーション推進と社会的信頼の確保、権利侵害リスクの防止を両立することを目的とする

「ひるおび」での攻めと守りの両立事例  
→イラスト作成で生成AI「Nano Banana」導入

### 攻め 「オリジナルビジュアルの確立」



「ひるおび」オリジナルの夫婦の画像作成



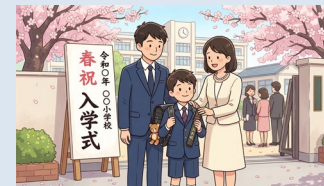
#### ボード① マザー画像作成

「二人の画像をベースに30代の夫婦が部屋の中で育児をしている姿を生成してください」

マザー画像を基にすることで著作権侵害のリスク無しにオリジナル画像を自由に展開可能



### 守り 「著作権侵害リスク回避」



#### ボード② 入学式

「マザー画像をベースに3人が入学式に参加しているイラストを生成してください」



#### ボード③ 老後

「マザーの画像をベースにこの夫婦の50年後の姿を生成してください」

# グローバルビジネス①



Inspiring  
Global Love  
for Japan  
through  
Timeless  
Moments



## THE SEVENの取り組み～

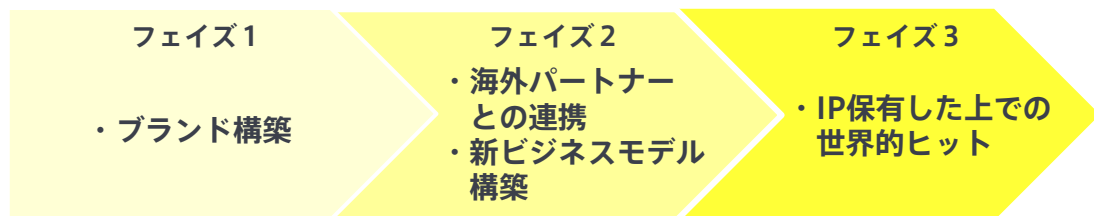


2026年度の売上高は63億円超を見込む。  
2027年度には、海外OTT向けの3作品の完成納品を含め、81億円を超える売上高を見込む。

THE SEVEN	2026年度 予想	2027年度 予想
売上高	6,300	8,100

単位：  
百万円

THE SEVENの戦略フェイズ3つのうち、認知を広めブランド構築を図る「フェイズ1」から、海外のパートナーとの連携・共同制作や新たなビジネスモデルの構築を図り、利益も確保していく「フェイズ2」へ移行。



## Disney+と共同開発契約を締結



フェイズ2の一環としてウォルト・ディズニー・ジャパンと実写ドラマシリーズの複数年にわたる共同開発契約を締結。国内撮影・日本語によるドラマをDisney+でグローバルに配信。



## TBS x U-NEXT x THE SEVENグローバルプロジェクトドラマ 「ちるらん 新撰組鎮魂歌」



©橋本エイジ・梅村真也/コアミックス ©THE SEVEN

スペシャルドラマ“江戸青春篇” 2026年3月26日・27日に地上波で2夜連続放送。  
ドラマシリーズ“京都決戦篇” 3月27日より毎週金曜にU-NEXTで国内独占配信、  
5月9日よりHBO Maxで全世界配信開始。

## Netflixシリーズ 「国民クイズ」 2026年 世界配信



初のTHE SEVEN企画・制作のコンテンツ。  
伝説的カルトコミックを完全映像化。

## Netflixシリーズ 「俺のこと、なんか言ってた？」 2026年 世界配信



磯山晶PとNetflixとの5年契約の下で手掛ける最初の作品。  
宮藤官九郎オリジナル脚本。  
Netflixで世界独占配信予定。

TBS、韓国CJ ENMおよびU-NEXT HOLDINGSと合併会社「StudioMonowa（スタジオモノワ）」を設立  
日韓のクリエイティビティが交わる「StudioMonowa」から、世界と調和する次世代のグローバルIPを創出



名称	株式会社StudioMonowa
所在地	東京都港区西新橋二丁目7番4号 CJビル
代表者	代表取締役社長 崔 起容（チェ・ギヨン）
事業内容	映像コンテンツの企画、IPの取得・投資・開発 等
資本金	12億5,000万円（資本準備金を含めた出資総額：25億円）
設立年月日	2026年4月10日
出資比率	CJ ENM 51%、TBS HD 40%、U-NEXT HD 9%

## 設立目的とビジョン

- 日韓の強みを掛け合わせた最高峰の制作体制を構築し、企画の初期段階からグローバル市場でのヒットを見据えた映像コンテンツをプロデュース。
- 単なる映像制作に留まらず、IPを保有し、作品から生まれたIPの展開も初期の段階より構想し、息の長い持続的な収益モデルを確立。
- 日本の原作資産やオリジナル企画に対し、地上波のみならずグローバルOTTでの展開を前提とした制作費を投じ、アジアから世界中を熱狂させるハイクオリティなエンタテインメントを届けることを目指す。

## シナジー効果

- 制作・企画・流通の各分野で圧倒的な実績を持つ3社がワンチームになることで、シナジーを生み出す。
- CJ ENMが提供する世界基準の制作ノウハウに、TBSの企画力と演出力、IP二次展開の知見、さらに、国内最大級の動画配信プラットフォームを展開し、グローバル展開も加速させるU-NEXT HOLDINGSが加わり、より多角的な視点を得て、新たなエンタテインメントを創出へ。



Inspiring  
Global Love  
for Japan  
through  
Timeless  
Moments

## SASUKE/NINJA WARRIORのグローバル展開・拡張













これまで165以上の国と地域で放送・配信、25か国で現地版を制作。実績のある日本を含むアジア、米国、ドイツ、フランス、ポーランドを除く全世界で、グローバル・ディストリビューターBanijayと協業。フォーマット展開の拡大を目指す。

## レジェンダリーとのワーキンググループが本格始動



戦略的パートナーシップを結んだレジェンダリーと、日本発のIPを原作とした作品を複数本、継続的に共同企画・開発するべく、ワーキンググループが本格始動。具体的なIP候補の選定作業中。

## 海外制作会社との新規IP共同開発が加速

番組名	<p>TONO ～体を張ってお膳立てせよ～</p> 	<p>シンクロゲーム</p> 	<p>文武～BUNBU～</p> 	<p>DUMB LUCK ～強運No.1決定戦～</p> 	<p>Special Delivery ～スペシャルデリバリー～</p> 
共同開発	<p>All3Media International</p> 	<p>CJ ENM</p> 	<p>Eureka</p> 	<p>A. Smith &amp; Co. Productions</p> 	<p>Fremantle</p> 

# エデュテインメント

- ・ 知育・教育とエンタテインメントの融合「EduTainment」事業、2030年度までに400億円規模の売上※を目指す
- ・ 本事業の推進にあたり、教育ビジネスを牽引してきた山崎昌樹氏が特任執行役員として就任
- ・ デジタル/フィジカルの2軸で「映像とAI」をキーワードとし、サービス開発や事業インキュベーションを推進

※やる気スイッチグループなどを含む

## 特任執行役員（エデュテインメント事業化戦略担当）



### 山崎 昌樹

元 株式会社ベネッセホールディングス取締役  
元 株式会社ベネッセコーポレーション取締役副社長

## 進行中のプロジェクト

### AI for School

TBS独自の教育特化型生成AIツールが、文部科学省の「生成AI実証研究事業」に採択される。

全国6自治体13の公立小・中学校で実施し、2月に終了。JNN28局のニュースを集めた「TBS NEWS DIG」と「学校の授業」をAIで紐づけ、信頼性、安全性、エンタメ性を取り入れたAI学習環境を提供。

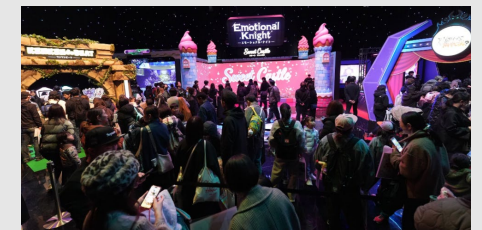
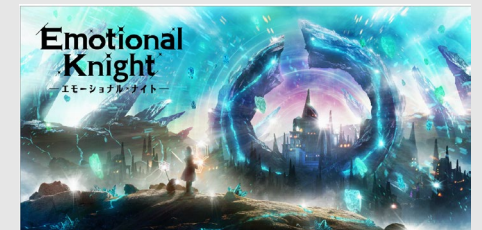
90%以上の生徒が学習理解度が向上したと回答。成果と課題をベースに更なる開発を進める。



### e6 project

AIが浸透していく時代の中で、子どもたちがAIとの対話をもとに「自分で決める力」を育む次世代エデュテインメントを創出する、NTTとの共同プロジェクト。

オリジナルIP「感情騎士—エモーショナル・ナイト—」の開発・展開と、世界観をリアルに体験できる常設拠点「AIテーマパーク（仮称）」の事業化を両輪とする。



118の元素をベースにするキャラクターが生息する魔法の世界が舞台「AKASAKA あそび! 学び! フェスタ (3月)」にて体験ブースを展開



- ・コンテンツIPの獲得・マネタイズを目的とし**総額300億円の投資枠**を活用
- ・IP投資の第2弾としてゼノトゥーン社を子会社化 予定  
IPビジネスの経験豊富な**川瀬好一氏**が率いる新進気鋭の次世代型スタジオ  
SNSで人気を博する**安田現象氏**が率いる3Dアニメスタジオを有する
- ・アニメ事業を加速し、新規IPの発掘や育成に加え、**メガIPの獲得**も目指す

## 株式会社ゼノトゥーン



代表取締役 川瀬好一

### 経歴

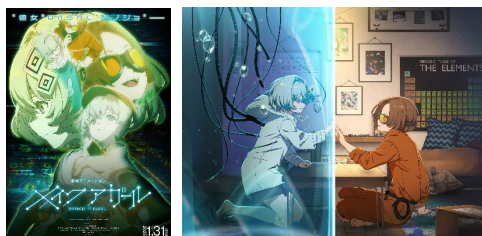
- 株式会社ナムコ (現：株式会社バンダイナムコエンターテインメント)
- ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
- 株式会社マーベル・エンターテインメント
- 株式会社ポケモン
- 2019年 株式会社ゼノトゥーン設立

「アニメで世界をハックする」をミッションに掲げ、クリエイター主導の制作体制と最新テクノロジーを融合させた次世代型アニメスタジオ。

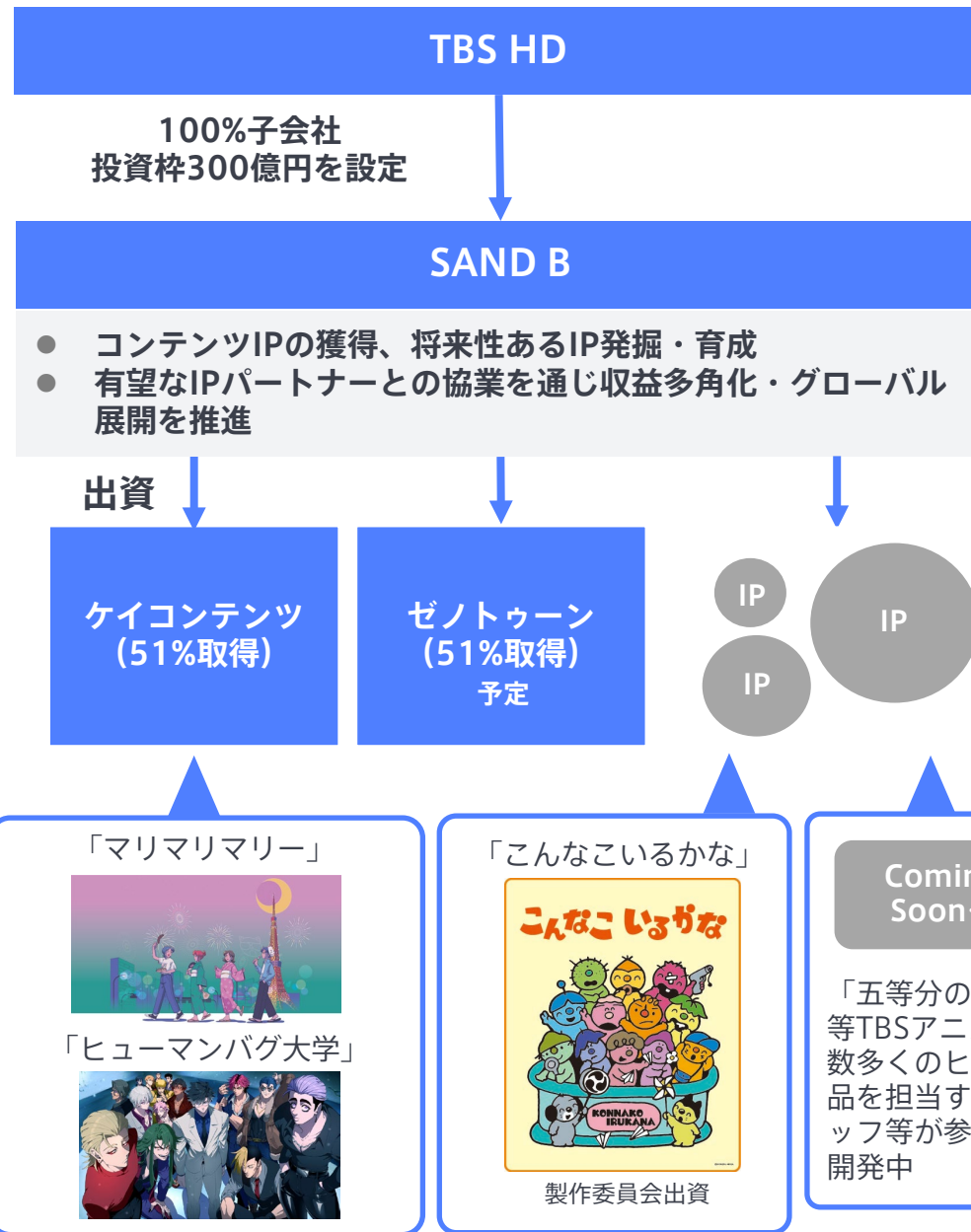
SNS総フォロワー数630万人超を誇るアニメ作家・安田現象氏が率いる3DCGアニメスタジオやアニメクリエイター主導のマルチスタジオネットワークの構築により、SNSを起点としたショートアニメからTVシリーズ、劇場版まで、従来の制作スキームにとらわれない効率的な制作手法でのIP開発を行っている。

### 保有IP

【安田現象スタジオ by Xenotoon】  
「メイクアガール」



「あやかしアラモード」



## ブランド事業

### ①グローバル市場に向けた展開 「KASSO」



©Daniel CABRAL



### 「KASSO FEST SKATE & SOUND」開催

- 3月21日・22日 米・カリフォルニア州ロングビーチにて、スケボー版SASUKE「KASSO」と音楽ライブを融合させたイベント開催。のべ4,000人以上のKASSOファンが集結、全世界にYouTubeで生中継。
- グローバル向けストリートブランドへの成長を目指しアパレルも展開。
- 公式SNSを含むKASSO関連動画の累計再生数9億回(4月20日現在)超え。

### ②エデュテインメント事業での展開 新規IP「キキとポップ」・「ベベフィン」



© The Pinkfong Company

- Pinkfong社と共同制作した新規IP「キキとポップ (Kikipuppup) 」英語版YouTubeチャンネル登録者数45万人、累計再生回数1.4億回超え(4月15日現在)。
- 3月開催の「AKASAKA あそび! 学び! フェスタ」に出展。「キキとポップ」は世界初となるショーを実演。
- 6月発売予定の「ベベフィン」知育・英語教育ワークブック第二弾は「どうぶつ奇想天外!」とのコラボレーションが決定。ベベフィンは出版・アパレル・食品・雑貨の領域でもライセンスを幅広く獲得。

宝島社

小学館  
SHOGAKUKAN

ポプラ社  
POPPLA



Opus

# IP戦略②

## ヒトIP事業



© BMSG



### STARGLOW

- 2025年7月から9月にかけて放送されたオーディションプロジェクト「THE LAST PIECE」から生まれた5人組ボーイズグループ「STARGLOW」。  
4月1日に2ndシングル「USOTSUKI」をリリース。  
4月8日発表の「オリコン週間デジタルシングル（単曲）ランキング」で1位を獲得。
- STARGLOW初の全国17か所を巡るファンミーティングツアーを実施。  
追加公演として、デビュー半年となる8月に初のアリーナ公演が決定。
- TBSドキュメンタリー映画祭2026に出品した「THE LAST PIECE -Glow of Stars-」は同映画祭史上過去最高の動員数を記録。5月以降、U-NEXTほかで配信予定。

THE LAST PIECE  
-Glow of Stars-



### Hi-Fi Un!corn

- 3月にメジャー1stアルバム「FIRST MOVE」をリリース。
- リード曲の「HUNGRY HEART」は4月1日発表の「週間USEN HIT J-POPランキング」1位を獲得。
- 4月から3度目となるアジアツアーを開催中。



© FNC ENTERTAINMENT JAPAN INC.

## ゲーム事業 TBS GAMES

### KILLER INN



- TBS GAMESとスクウェア・エニックスが「KILLER INN」を共同製作。
- 2月13日からSteam®にて早期アクセス版の配信開始。
- 地上波でのスポット展開や深夜特番を編成。プロモーション効果により中国、日本で盛り上がりを見せた。



## 地上波ドラマ派生の映画

劇場版  
「TOKYO MER~走る緊急救命室~  
CAPITAL CRISIS」

2026年8月21日公開



TBSテレビ日曜劇場で2021年放送の「TOKYO MER」劇場版第三弾。25年公開の前作は観客動員392万人、興収52.9億円の大ヒットを記録。

## カンヌ映画祭出品の映画

「黒牢城」

2026年6月19日公開



直木賞受賞の戦国ミステリーを映画化した「黒牢城」。第79回カンヌ国際映画祭「カンヌ・プレミア」部門に正式出品が決定。

## 舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」140万人突破



同劇場公演ストレートプレイとしてロングラン記録を更新し続けている舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」は総観客数140万人突破、2026年はラストイヤーを記念して、歴代キャストが次々にカムバックする。

# 映画・興行・催事 今後のラインアップ

2026年5月14日 現在

TBS

	期間	タイトル	備考
映画	2026/5/15公開	「君のクイズ」	配給：東宝
	2026/6/19公開	「黒牢城」	配給：松竹
	2026/8/21公開	劇場版「TOKYO MER～走る緊急救命室～CAPITAL CRISIS」	配給：東宝
	2026/10/23公開	「うるわしの宵の月」	配給：東宝
興行	2022/7/8~2026/12/27	舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」	TBS赤坂ACTシアター
	2026/4/22~5/16	MANGALOGUE (マンガログ) : 火の鳥	MoN Takanawa:Box1000
	2026/5/16~5/24,6/6~6/7	東野圭吾シアターVol.2 「ナミヤ雑貨店の奇蹟」	サンシャイン劇場 ほか
	2026/5/17	ジェフ・ミルズ presents 火の鳥ーエレクトロニック・シンフォニカー	MoN Takanawa:Box1000
	2026/5/21~6/6	ミュージカル「メリー・ポピンズ」	梅田芸術劇場メインホール
	2026/5/23~6/14	熊川哲也 K-BALLET TOKYO Spring Tour 2026 「パリの炎」	Bunkamura オーチャードホール
	2026/5/30	「エガフェス2026~レジェンドイヤー・ファイナル~」	富士急ハイランド・コニファーフォレスト
	2026/6/7~6/21,6/26~7/12	ミュージカル「神経衰弱ぎりぎりの女たち」	日本青年館ホール ほか
	2026/6/10~6/30,7/8~7/12	舞台「俺節」	東京建物Brillia HALL ほか
	2026/7/19~7/20	熊川哲也 K-BALLET TOKYO 「K-BALLET SELECTIONS 2026」	Bunkamura オーチャードホール
	2026/7/31~8/2,8/8~8/11	宇野昌磨アイスショー「Ice Brave-A TURNING SEASON-」	愛・地球博記念公園アイススケート場 ほか
	2026/9/11~9/17,9/25~9/27	「古川雄大 The Greatest Concert vol.3 -Man of the Stage-」	東京国際フォーラム ホールC ほか
	2026/9/30~10/18,10/22~10/25	舞台「ナイボー！」	東京建物 ぴあ シアター ほか
	2026/10/6~10/22,10/29~11/1	「THE ALUCARD SHOW」	日本青年館ホール ほか
催事	2026/3/14~6/14	特別展「超危険生物展 科学で挑む生き物の本気」	国立科学博物館
	2026/3/20~10/12	「ピクサーの世界展」あなたが夢見た物語の世界へ	CREVIA BASE Tokyo
	2026/4/9~6/21	サンリオ展 FINAL ver. ニッポンのカワイイ文化60年史	森アーツセンターギャラリー
	2026/5/29~8/12	大ゴッホ展 「夜のカフェテラス」	上野の森美術館
	2026/6/10~9/21	ピカソ meets ポール・スミス 「遊び心の冒険へ」	国立新美術館 企画展示室 2E

# 赤坂エンタテインメント・シティ

赤坂エンタテインメント・シティ エリア全体マップ



駅まち空間 (東棟)



西棟

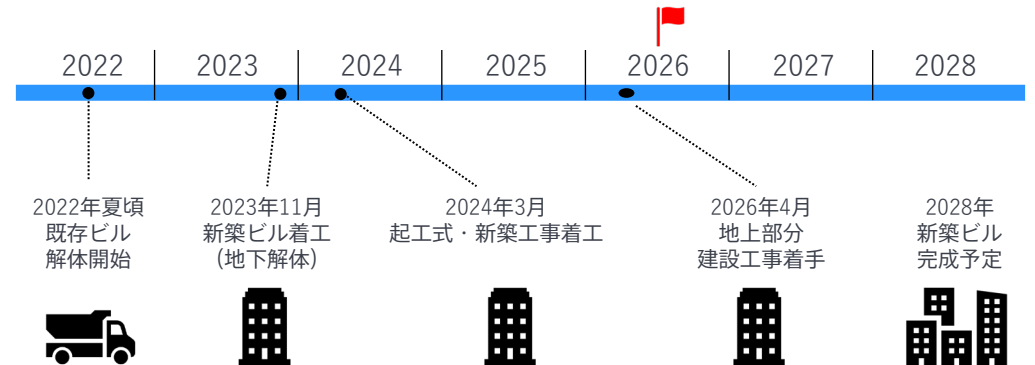


キャノピーbyヒルトン東京赤坂 (西棟)



※画像はイメージです。実際と異なる可能性があります。

## 再開発エリアの工事スケジュール



## 株式会社TBS Green Transformation (TBS GX)が、3件目となる営農型太陽光発電所\*を取得

\*農地の上に太陽光パネルを設置して発電する仕組み



取得した営農型太陽光発電所



- ・創出した再生可能エネルギーは、コンテンツ制作拠点である緑山スタジオ（横浜市）へ6月から供給開始予定。
- ・ソーラーパネルの下で牧草の育成、ストレスに配慮した形での牛の放牧を行う、営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）。

発電所所在地	発電規模	稼働開始
福島県矢吹町	101.76kw	2022年12月

TBS GX コーポレートサイト  
<https://www.tbsholdings.co.jp/TBSGX/>

## 「地球を笑顔にする広場2026春」開催



- ・5月11日（月）から17日（日）、全社プロジェクトとして「地球を笑顔にするWEEK」を開催。応援アンバサダーに池江璃花子（競泳）、小田凱人（車いすテニス）を迎え、スポーツをテーマにSDGsアクションを促進。
- ・WEEK中の2日間、16日（土）、17日（日）に体験型SDGsイベント「地球を笑顔にする広場2026春」を開催予定。日曜劇場「GIFT」、この秋開催の「アジア大会 愛知・名古屋」との連動企画も。2日間で約1万5,000人来場見込み。

## 健康経営®



「健康経営優良法人 2026 (大規模法人部門)」  
～ホワイト 500～ 3年連続認定。  
民放キー局で唯一の認定局。

TBSホールディングスは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みをグループ全体で一層強化・加速するため、2021年10月に代表取締役社長を委員長、ESG戦略責任者である取締役を副委員長とする「サステナビリティ委員会」を設置。

健康経営は、「サステナビリティ委員会」傘下の「ウエルネス・ワーキンググループ」とウエルネス推進部が中心となり、TBSグループをはじめ、東京放送診療所および東京放送健康保険組合と協力して、安全で働き甲斐のある創造性を発揮できる職場づくりを目指し、取り組んでいます。

※「健康経営®」は特定非営利活動法人 健康経営研究会の登録商標です。

## 健康経営®への主な取り組み

- ・ヘルスリテラシー向上とワークライフバランス推進  
「ヘルスリテラシー研修」、「病気の治療と仕事の両立」、「育児と仕事の両立」等をテーマとしたセミナー実施
- ・生活習慣病対策  
ウォーキングイベント、ベジチェック等を実施し運動習慣者比率を改善
- ・メンタルヘルス対策  
パルスサーベイ、1 on 1 ミーティングを通じた早期の気づきと個別サポートを実施。



## 「食育実践優良法人2026」

食環境の改善、従業員の食習慣改善への積極的な取り組みを継続してきた成果が認められました。



## ESG投資指数

2026年5月14日現在



FTSE4Good



FTSE Blossom  
Japan Index

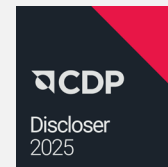


FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

FTSE4Good Index Series、  
FTSE Blossom Japan Index、  
FTSE Blossom Japan Sector  
Relativeの構成銘柄に選定

※いずれもグローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが作成したESG指数

## 環境対応



- ・3年連続で「B」スコアを獲得  
(8段階中、上から3番目のスコア)
- ・「B」スコアは、環境問題によるリスクや影響のトラッキング、管理を行っている「マネジメントレベル」という位置づけ

※国際NGOである英国のCDPが企業の環境に対する取組みや情報開示について実施する評価

2025年度 通期決算ハイライト

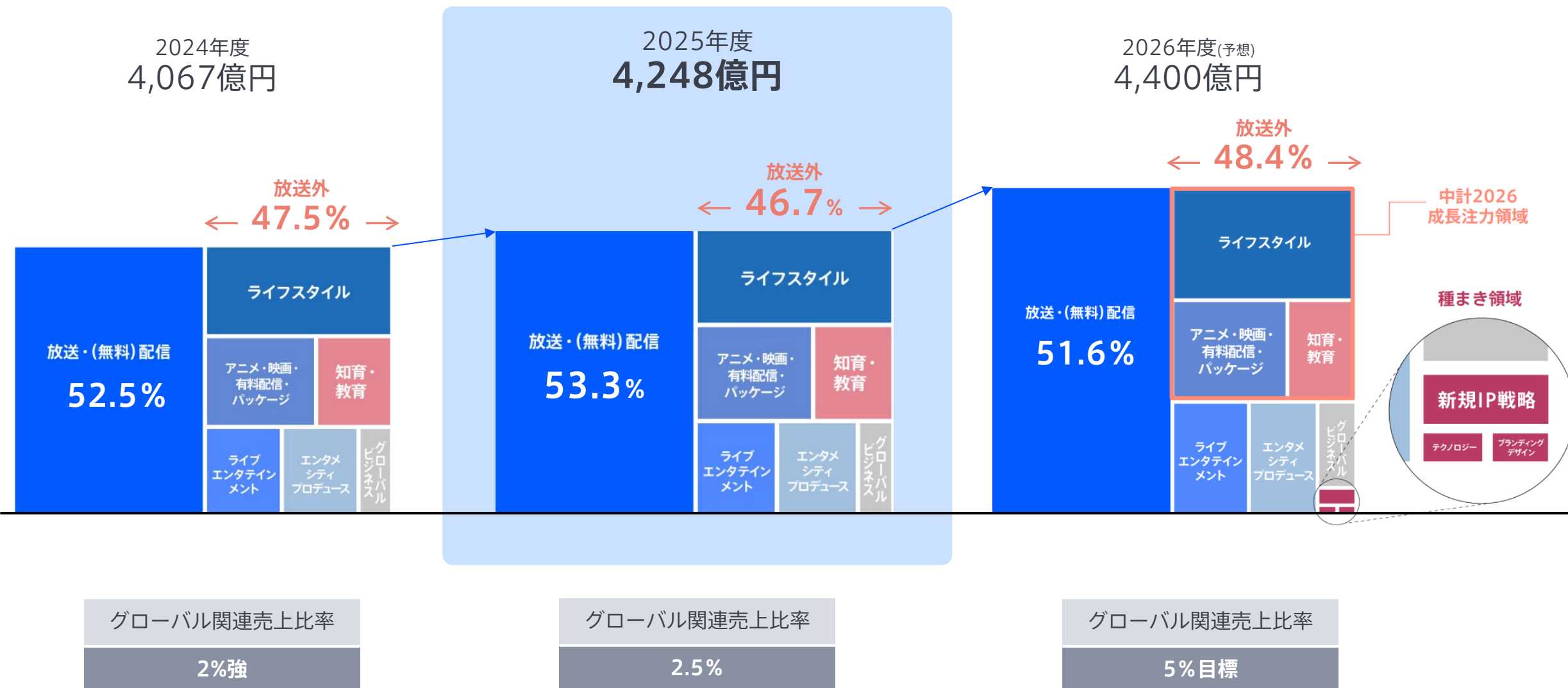
TBSグループ中期経営計画2026のアップデート

2026年度 業績見通し

その他トピックス

**▶ 参考資料**

# 放送事業と放送事業以外の収入割合

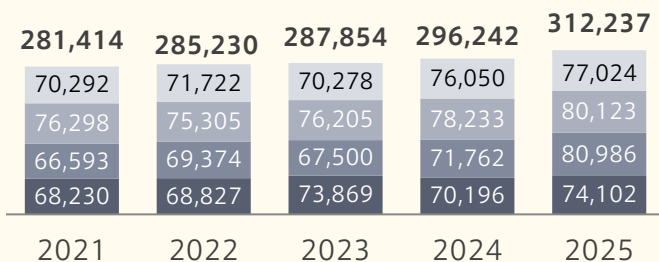


# 連結セグメント別 経年推移

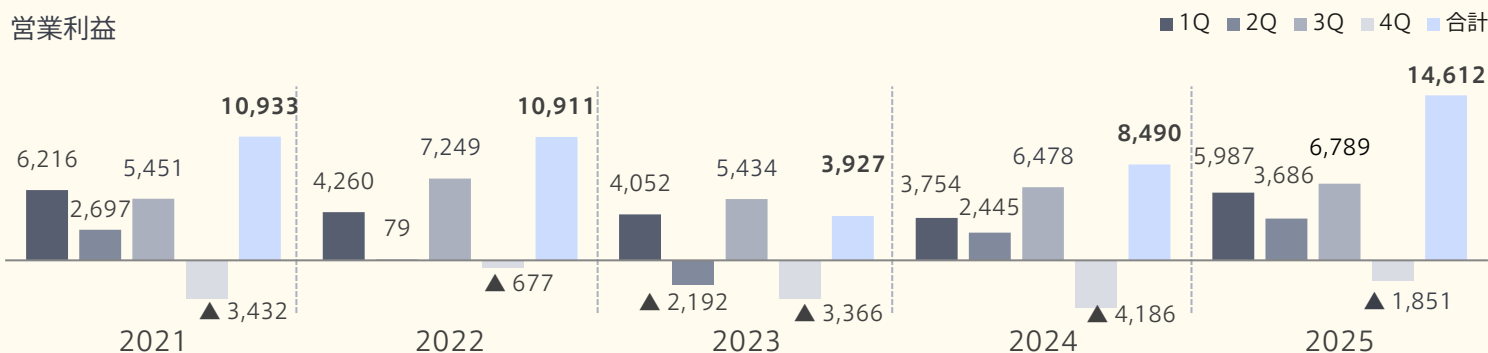
単位：百万円

## メディア・コンテンツ

外部売上高

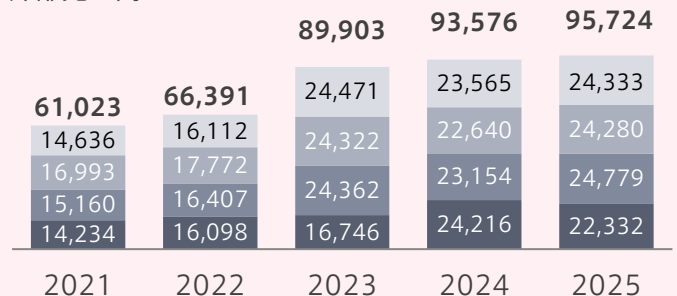


営業利益

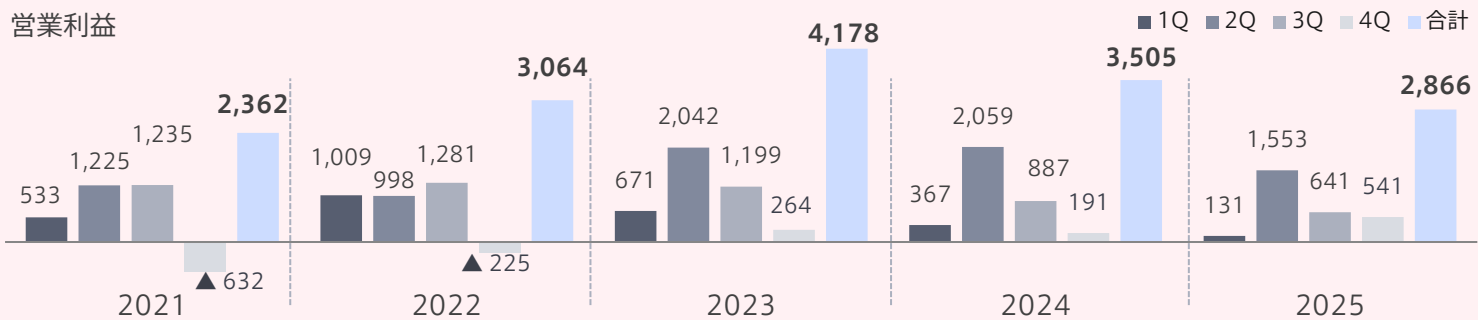


## ライフスタイル

外部売上高

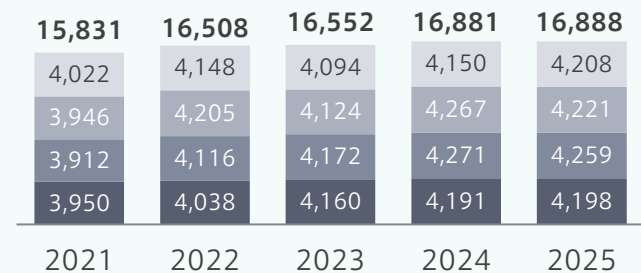


営業利益

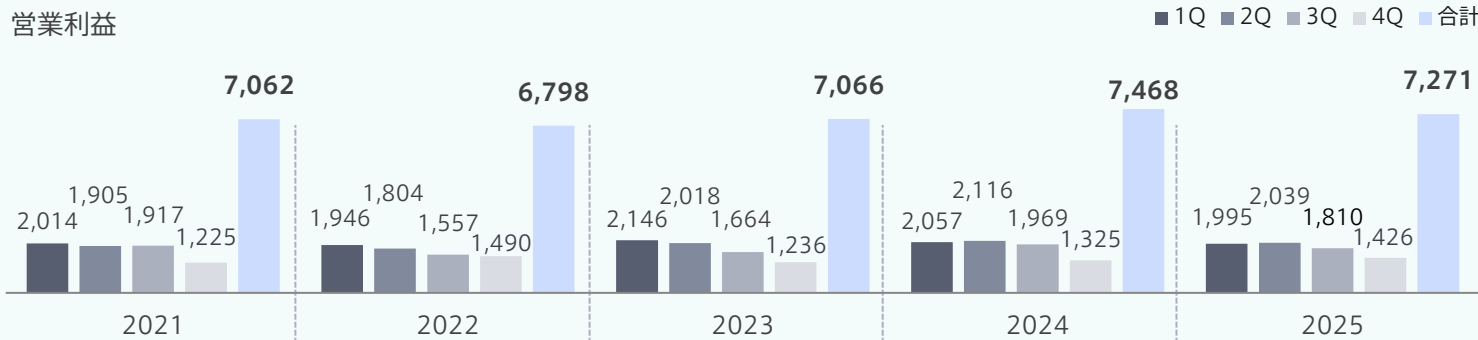


## 不動産・その他

外部売上高



営業利益



# 設備投資と減価償却費

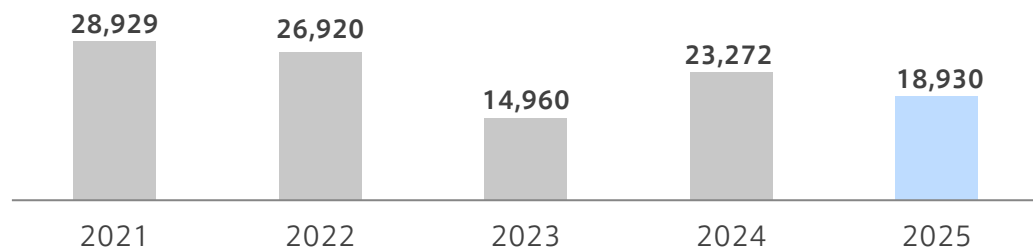
連結	2025年度	前年差	2026年度 予想
設備投資	18,930	▲4,341	21,500
減価償却費	15,053	+220	16,000

単位: 百万円

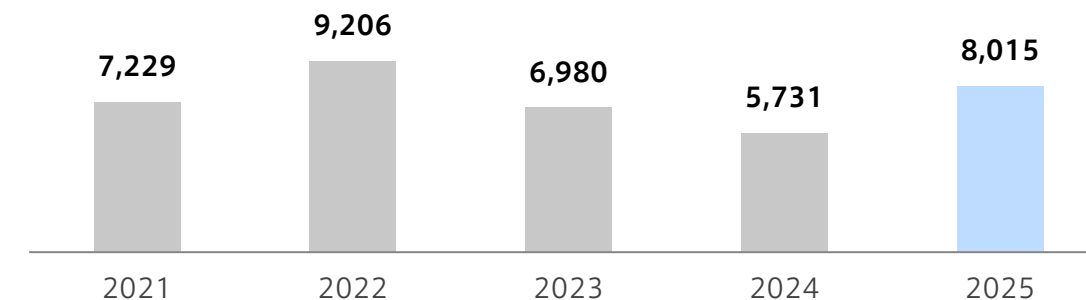
TBSテレビ	2025年度	前年差	2026年度 予想
設備投資	8,015	+2,284	5,900
減価償却費	7,597	▲171	5,000

単位: 百万円

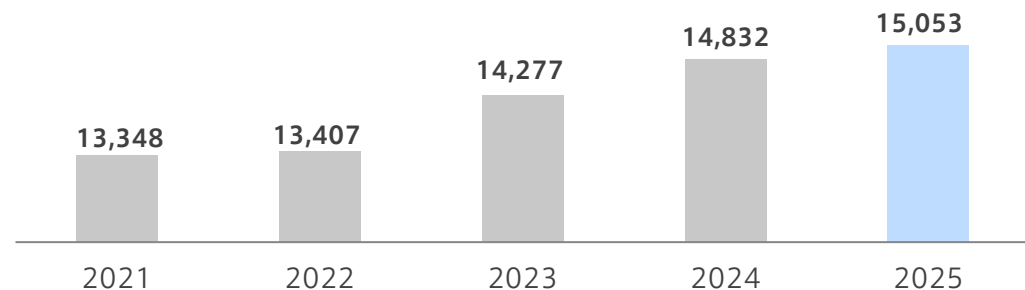
連結設備投資



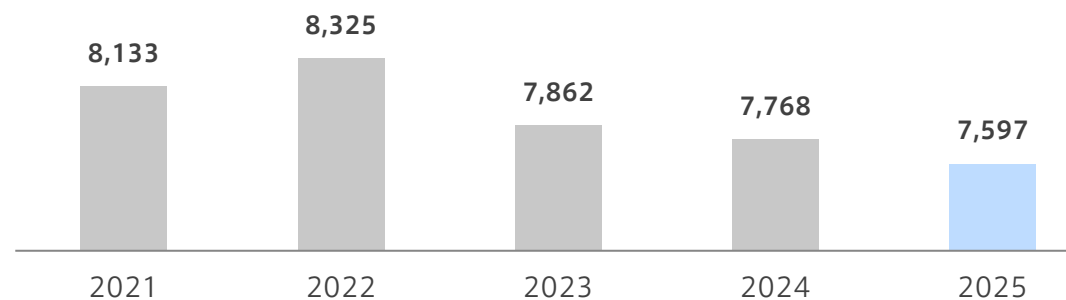
TBSテレビ設備投資



連結減価償却費



TBSテレビ減価償却費



# 連結貸借対照表

	2025年 3月末	2026年 3月末	比較		2025年 3月末	2026年 3月末	比較
流動資産	202,958	270,188	+67,230	流動負債	109,782	111,216	+1,433
				固定負債	237,109	381,613	+144,503
				負債合計	346,892	492,830	+145,937
固定資産	1,093,167	1,358,032	+264,865	自己資本	935,712	1,127,718	+192,006
				非支配株主持分	13,520	7,672	▲5,847
				純資産合計	949,232	1,135,390	+186,158
資産合計	1,296,125	1,628,220	+332,095	負債 純資産 合計	1,296,125	1,628,220	+332,095

単位:  
百万円

期末有利子負債残高 736億円 (前期末比 +597億円)

※ リース債務は除く

# 連結キャッシュ・フロー計算書

	2024年度	2025年度	前年差
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,283	10,125	▲13,157
投資活動によるキャッシュ・フロー	13,645	30,101	+16,456
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲6,106	9,088	+15,195
現金及び現金同等物の増減額	30,878	49,320	+18,441
現金及び現金同等物の期首残高	43,698	74,577	+30,878
現金及び現金同等物の期末残高	74,577	123,897	+49,320

単位:  
百万円

# LTV4-59視聴率(4-59歳)

(※ [ ] 内は前年差 単位：%)

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
<b>TBS</b>	②1.9 [+0.1]	②3.9 [+0.3]	②3.7 [+0.2]	②1.3 [0.0]
日本テレビ	①2.7 [▲0.1]	①4.6 [▲0.1]	①4.3 [▲0.1]	①2.2 [▲0.1]
テレビ朝日	④1.5 [0.0]	④2.5 [▲0.3]	④2.7 [▲0.2]	④1.1 [0.0]
テレビ東京	⑥0.5 [▲0.1]	⑥1.5 [▲0.2]	⑥1.4 [▲0.1]	⑥0.3 [0.0]
フジテレビ	③1.7 [▲0.1]	③2.9 [▲0.2]	③2.8 [▲0.2]	②1.3 [▲0.1]
NHK	⑤0.9 [▲0.1]	⑤2.0 [▲0.1]	⑤1.7 [▲0.2]	⑤0.7 [▲0.1]
PUT	10.2[▲0.4]	19.1 [▲0.5]	18.0[▲0.6]	8.0 [▲0.4]

(2025/3/31 ~ 2026/3/29 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ：関東地区)

# 個人全体視聴率 (ALL)

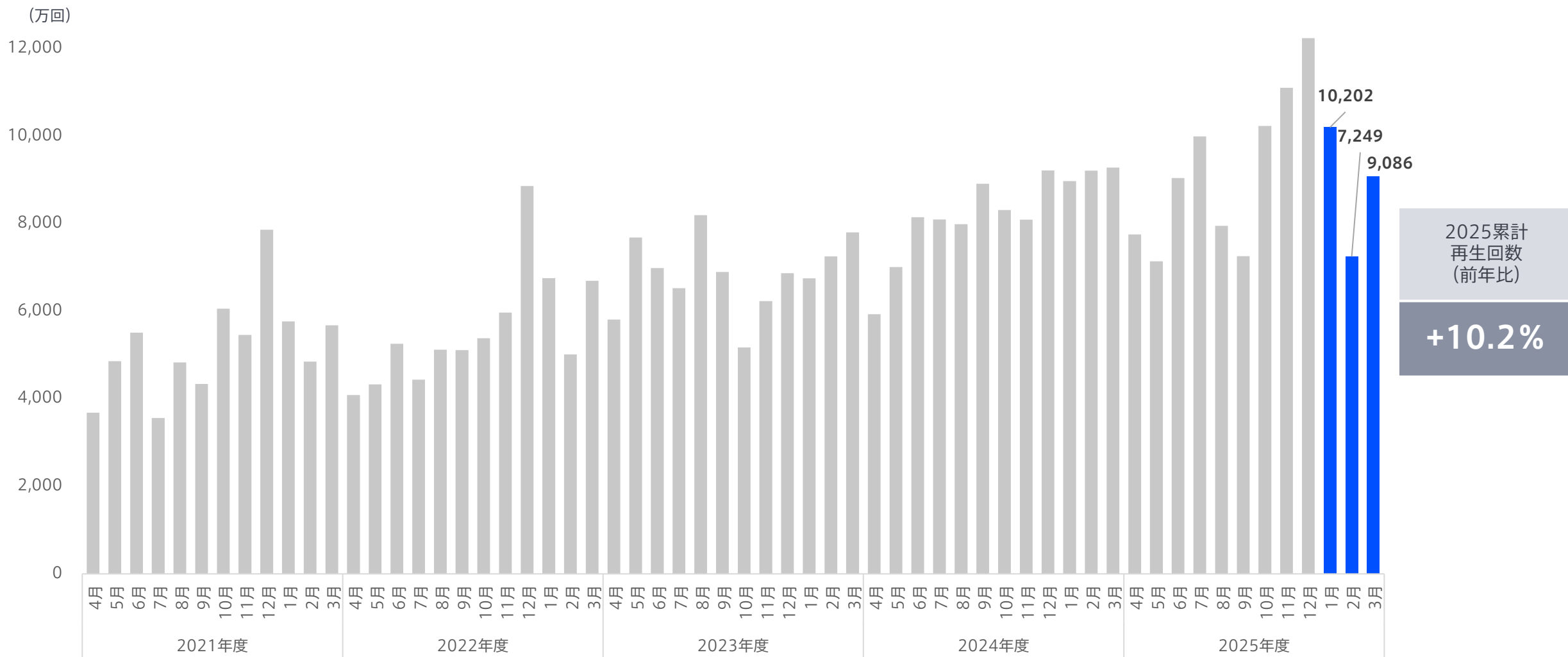
(※ [ ] 内は前年差 単位: %)

	全日	ゴールデン	プライム	ノンプライム
<b>TBS</b>	④2.7 [▲0.1]	④4.5 [+0.1]	③4.3 [+0.1]	④2.3 [▲0.1]
日本テレビ	②3.3 [▲0.1]	①5.1 [▲0.2]	②4.7 [▲0.3]	①2.9 [▲0.1]
テレビ朝日	①3.4 [▲0.1]	①5.2 [▲0.1]	①5.2 [▲0.1]	①2.9 [▲0.1]
テレビ東京	⑥1.1 [▲0.1]	⑥2.9 [▲0.1]	⑥2.5 [▲0.1]	⑥0.7 [0.0]
フジテレビ	⑤2.1 [▲0.1]	⑤3.4 [▲0.1]	⑤3.2 [▲0.2]	⑤1.7 [▲0.2]
NHK	③2.8 [0.0]	③4.9 [▲0.1]	④4.2 [▲0.1]	③2.4 [0.0]
PUT	18.2 [▲0.4]	29.9 [▲0.7]	27.8 [▲0.7]	15.4 [▲0.4]

(2025/3/31 ~ 2026/3/29 : 週ベース)

(ビデオリサーチ調べ: 関東地区)

# TVer・TBS FREE 再生回数



※2023年3月末まではGYAO!を含む

# タイム・スポット収入対前年比

単位：  
百万円

	タイム			スポット				備考
	2025年度	前年差	増減率	2025年度	前年差	増減率	地区投下 (推計)	
4月	7,355	+465	+6.8%	7,521	+421	+5.9%	▲11.0%	タイムは、レギュラーセールス好調。
5月	6,566	+157	+2.5%	7,545	+1,194	+18.8%	▲1.5%	
6月	6,391	▲597	▲8.5%	7,283	+1,221	+20.2%	▲0.7%	タイムは、「バレーボールネーションズリーグ」の反動（2025年度は7月放送）。
7月	7,151	+712	+11.1%	7,534	+961	+14.6%	+6.2%	タイムは、「バレーボールネーションズリーグ」で増収（2024年度は6月放送）。
8月	6,581	▲638	▲8.8%	6,410	+1,071	+20.1%	+12.7%	タイムは、「パリ五輪」の反動減、スポットは反動増。
9月	12,040	+5,984	+98.8%	5,015	▲1,375	▲21.5%	+0.2%	タイムは、「東京2025世界陸上」で大幅増収。
10月	6,906	+244	+3.7%	7,609	+179	+2.4%	▲3.4%	
11月	7,207	▲426	▲5.6%	7,874	+215	+2.8%	+0.3%	タイムは、「世界野球プレミア12」の反動減。
12月	7,479	+57	+0.8%	8,340	+627	+8.1%	+3.9%	
1月	7,337	+206	+2.9%	7,301	+505	+7.4%	+10.0%	
2月	6,527	+988	+17.9%	6,356	▲53	▲0.8%	+17.8%	タイムは、「ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピック」で増収。
3月	7,105	+229	+3.3%	8,619	+88	+1.0%	+12.0%	
1Q	20,313	+25	+0.1%	22,350	+2,837	+14.5%	▲4.7%	
2Q	25,773	+6,059	+30.7%	18,960	+657	+3.6%	+6.0%	
3Q	21,593	▲124	▲0.6%	23,824	+1,021	+4.5%	+0.3%	
4Q	20,970	+1,425	+7.3%	22,277	+540	+2.5%	+12.9%	
通期	88,650	+7,386	+9.1%	87,413	+5,057	+6.1%	+3.5%	

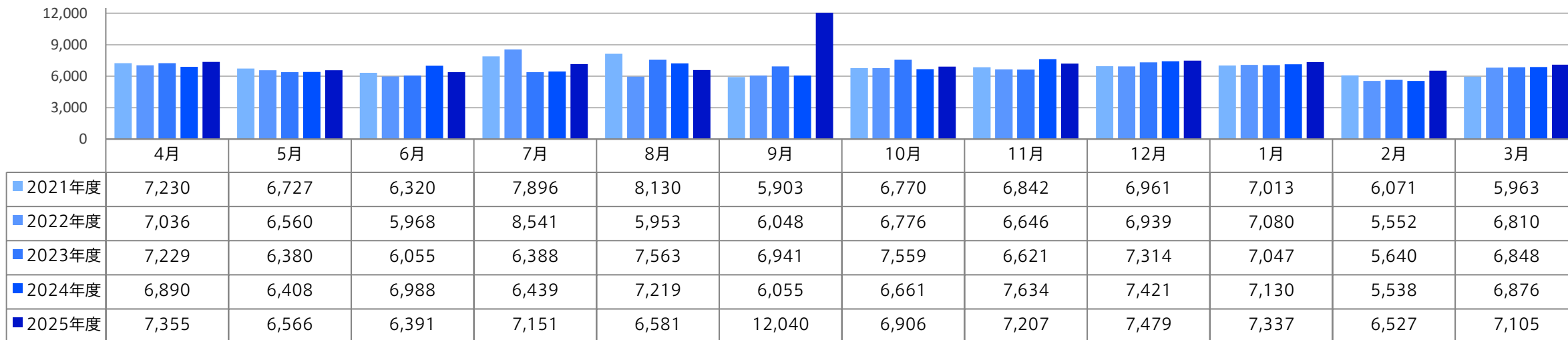
スポット5局シェア（推計） 四半期推移

2021年度 20.1% (累計)				2022年度 20.6% (累計)				2023年度 20.5% (累計)				2024年度 21.5% (累計)				2025年度 22.1% (累計)			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
20.4	20.3	19.7	20.0	21.2	20.6	20.9	19.6	20.9	20.6	20.2	20.1	20.8	21.4	20.9	23.2	25.0	20.9	21.7	21.0

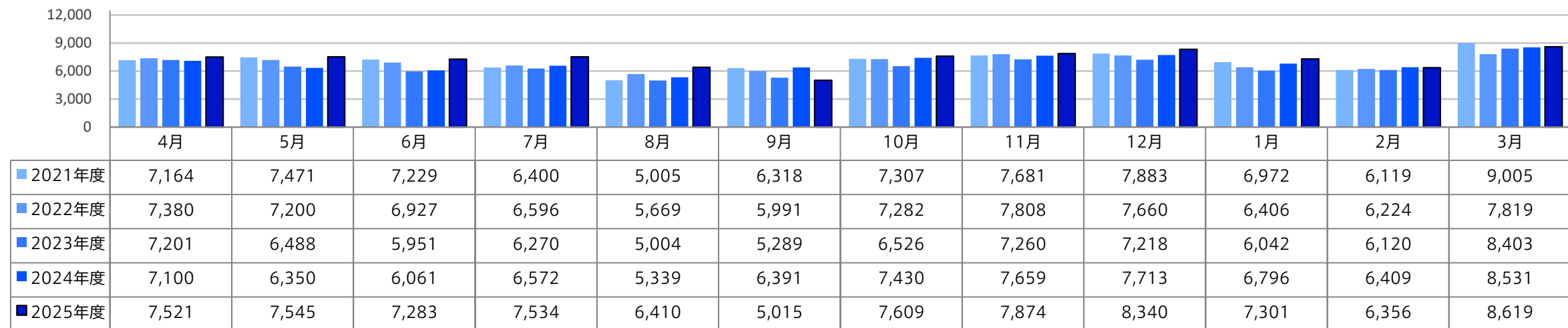
# タイム・スポット収入 経年推移

## タイム収入

単位：百万円



## スポット収入



# 業種別スポット売上順位

単位：%

	2024年度	増減率	シェア
1	情報・通信・放送	▲5.3	15.1
2	酒・飲料	▲1.1	10.0
3	食品	▲0.9	8.9
4	外食・サービス	+7.9	8.6
5	医薬品	▲4.2	6.6
6	交通・レジャー	+1.7	6.0
7	化粧品・トイレタリー	+21.0	5.8
8	金融	+9.9	5.5
9	不動産・建設	+33.2	5.4
10	自動車・輸送機器	+35.1	5.1

※ 順位は金額順

単位：%

	2025年度	増減率	シェア
1	情報・通信・放送	+12.2	15.9
2	外食・サービス	+10.3	8.9
3	酒・飲料	▲7.9	8.7
4	食品	▲0.7	8.3
5	金融	+25.3	6.5
6	医薬品	+3.8	6.4
7	交通・レジャー	+4.0	5.9
8	化粧品・トイレタリー	▲3.6	5.3
9	自動車・輸送機器	+9.4	5.2
10	不動産・建設	▲14.2	4.4

※ 順位は金額順

# 連結会社一覧

※ 2026年3月末現在

TBS

## メディア・コンテンツ/不動産・その他(1社)

(株) TBSテレビ

## メディア・コンテンツ(18社)

(株) TBSラジオ

(株) BS-TBS

(株) TBSスパークル

(株) TBSグローディア

(株) TBSアクト

(株) CS-TBS

(株) THE SEVEN

(株) Seven Arcs

TCエンタテインメント (株)

(株) TBSメディア総合研究所

(株) 日音

(株) マンガボックス

(株) W A C U L

(株) 100

TOKYO BROADCASTING SYSTEM INTERNATIONAL, INC.

Bellon Entertainment Inc.

THE SEVEN US, INC.

TOKYO BROADCASTING SYSTEM KOREA, INC.

## ライフスタイル(8社)

(株) スタイルングライフ・ホールディングス

(株) CPコスメティクス

(株) ビコース

(株) やる気スイッチグループホールディングス

(株) やる気スイッチグループ

(株) やる気スイッチキャリア

(株) YPスイッチ

(株) 寺小屋グループ

## 不動産・その他(5社)

赤坂熱供給 (株)

(株) TBS企画

(株) TBSサンワーク

(株) TBSヘクサ

(株) 緑山スタジオ・シティ

## 持分法適用(7社)

(株) リトプラ

(株) WOWOW

(株) Amazing Sports Lab Japan

(株) YGC

(株) U-NEXT

台湾拓人教育事業股份有限公司

(株) サンリオやる気エデュテイリング